

京都女子大学 地域連携研究センター

Annual Report 2021



目次

■地域連携研究センター

| | |
|---------------------------------------|----|
| 2021 年度の活動を振り返って 地域連携研究センター長 中山 玲子 | 01 |
|---------------------------------------|----|

■女性地域リーダー養成プログラム

| | |
|---------------|----|
| 2021 年度開講科目一覧 | 02 |
|---------------|----|

■連携プロジェクト補助事業

| | |
|---|----|
| 2021 年度連携プロジェクト補助事業一覧 | 08 |
| 東山区住民の防災力向上支援プロジェクト 発達教育学部 教育学科 教授 岩崎 保之 | 09 |
| 呼吸法を用いた生涯教育～リズムと歌を用いて感性を育む～ 発達教育学部 教育学科・音楽教育学専攻 教授 ガハブカ 奈美 | 11 |
| 京都刑務所との木育による造形プロジェクト 発達教育学部 児童学科 教授 矢野 真 | 13 |
| 電車／駅構内での性暴力防止を目指してー学生目線のポスター作成ー 法学部 法学科 教授 市川 ひろみ | 15 |

■その他の連携活動

| | |
|----------------|----|
| 活動制限のある中で展開を工夫 | 17 |
|----------------|----|

■生涯学習

| | |
|--|----|
| 京都女子大学が提供する「多様な学びの場」 | 19 |
| 2021 年度 公開講座一覧 | 19 |
| 2021 年度 生涯学習講座一覧 | 20 |
| 「いつまでもいくつになっても よい姿勢」2021 年度前期 「ちょっとしたお手入れで、よい呼吸、よい姿勢を手に入れよう」2021 年度後期 地域連携研究センター客員研究員 原田 奈名子 | 21 |
| 2021 年度 リカレント教育課程概要 | 23 |
| 実施スケジュール | 25 |
| 2021 年度データ | 27 |
| 資格取得 / 文部科学省事業の運営体制 | 30 |
| コーディネーターのコメント | 32 |

| | |
|----------------|----|
| 2021 年度 主な活動実績 | 35 |
|----------------|----|

| | |
|----------------|----|
| 協定締結先と連携協定内容一覧 | 36 |
|----------------|----|

| | |
|--------------------|----|
| 京都女子大学地域・産学官連携ポリシー | 37 |
|--------------------|----|

※教員の所属・職名は 2021 年度当時

2021 年度の活動を振り返って

地域連携研究センター長 中山 玲子

2021 年度の活動を振り返りますと、2020 年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）緊急事態宣言やまん延防止重点等措置の期間延長等もあり、対策に追われながらの一年でした。それなりに with コロナ時代の活動が出来ましたのも、ひとえに連携・協定先の諸機関並びに地域の皆さまのご支援・ご協力のおかげと、心より感謝申し上げます。

2021 年度の連携・協定先（行政、企業、各種団体等）は、京都弁護士会、日新電機株式会社、株式会社半兵衛塾、株式会社 SCREEN ホールディングス、日本赤十字社京都府支部、京都市、オムロンヘルスケア株式会社と、多岐にわたり包括連携協定を締結できた。

女性地域リーダー養成プログラム（地域連携活動科目）は一年ぶりに開講した科目もあったが、80 名未満の講義は対面型、それ以上の受講生数の講義はオンデマンド型で開講、としたが、緊急事態宣言やまん延防止重点措置が取られ、結局はオンラインとなった科目が多かった。寄附講座の講師の皆さまには、直接学生とのコミュニケーションが取れず、また、Zoom や録画による講義提供をしていただき、申し訳なく思っている次第である。しかしながら、2019 年度より開始した女性地域リーダー養成副専攻プログラムの単位を修了した者が 2 名おり、2 年間コロナ禍にありながら修了証を授与できる学生が出たことは、ご協力いただいた皆さまのおかげと心より御礼申し上げたい。

社会人を対象とした履修証明プログラムは不開講としたが、大学全学科、附属施設提供の生涯学習講座や公開講座もオンラインではあったが開催でき、視聴者の方々も with コロナでオンライン聴講に慣れて来られ、評価もよかったように思う。

地域連携活動も祇園新橋地区地域行事（火焚き祭）に学生や職員が参加するなど、可能な限りの活動を行った。法学部市川教授と学生らは電車 / 駅構内での性暴力防止を目指して、京都府警察鉄道警察隊及び阪急電鉄株式会社と、それぞれ数か月間にわたり意見交換をしながら性犯罪撲滅ポスターを作成した。従来は被害者となりうる人に注意喚起するポスターが多いが、性暴力を抑止する効果を考慮し、社会に問題提起を行った行ったもので、メディア等にも多数取り上げていただき、大きな反響を呼んだ。また、発達教育学部岩崎教授と学生らの「東山区住民の防災力向上支援プロジェクト」は、東山区の地域の自主防災会の方々や日本赤十字社と協働で、防災活動を行った。その他の活動については、p.11 ～ p.14 を参照いただきたい。

リカレント教育課程は 2018 年度から開講してきた平日通学コースが 4 年目を迎えた。これに加えて、今年度は、働

く女性のためのリカレント教育課程として、文部科学省令和 2 年度補正予算補助事業 2 コース〔就職・転職支援のための大学リカレント推進事業「女性のための未来をひらく学びと就労支援プログラム」（再就職支援コース）、「働く女性のためのブラッシュアッププログラム」（ブラッシュアップコース）〕及び、令和 3 年度補助事業女性の多様なチャレンジに寄り添う学びと社会参画支援 「キャリアアップを目指す働く女性のための AI/RPA に特化したリカレント教育プログラム」（キャリアアップコース）の計 4 コースを実施した。キャリアカウンセラーやコーディネーターのきめ細かいサポートにより、リカレント教育課程は無事に修了し、受講生からも高い満足度、評価を得ることができ、外部評価も高かった。

ブラッシュアップコースについては、広報のベストプラクティスとして文部科学省のホームページに紹介され、プログラムの内容についても野村総合研究所からインタビュー取材を受けた。キャリアアップコースについては、プログラム期間中に 2 回実施された文部科学省の有識者会議で、委員から「充実した質の高いプログラムである」と評価されたほか、文部科学省の視察（11 月 6 日）においても「働く女性にとって実践的で充実したプログラムである」との評価を得ている。プログラム実施期間中に、読売新聞からの取材や、朝日放送からのテレビ取材、矢野経済研究所からの取材を受けるなど、リカレントプログラム全体の注目度が高く、大学業界での京女リカレントの存在感が増している。これもひとえに、連携協力機関との緊密な連携活動が基盤にあったからこそ、関係各位に心より御礼申し上げたい。

今年度のリカレント事業からも、キャリアアップ、キャリアアチェンジを目指し、働きながら学び直しをしたい、また、管理職につきたいと考えている女性が多いことを再確認した。京都女子大学第 2 次グランドビジョン（2020-2029）、Topics04「女性の活躍をささえるリカレント教育の充実」の実現のため、関西における女性対象のリカレント教育課程のパイオニアとして、多様な立場にある女性のキャリアアップ・社会復帰を支えるリカレント教育課程の充実に、産官と連携して取り組んでまいりたい。

COVID-19 との戦いはまだ予断を許さない状況であります。が、京都女子大学の使命、自己の能力を活かして社会に貢献する自立した女性人材を養成するために、「生涯学び続けることのできる大学」を目標に、地域連携研究センターは、今後も更なる活動を展開していく所存です。皆さまのより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

女性地域リーダー養成プログラム 2021 年度開講科目一覧

| 科目名 | 担当者 | 開講時間 | 概要 |
|-----------|---|------------|---|
| 連携活動入門 | 竹安 栄子 | 後期／火 6 | 連携活動事始め～連携活動にチャレンジ～ 連携活動に従事するにあたって、知っておくべき基礎的な事項や身につけておくべき倫理事項、さらに多様な連携活動の実態について講義する。 |
| 地域連携講座 A1 | 京都府庁・京都市役所 日本銀行 (寄附講義) (鳥谷 一生) | 後期／木 6 | 京都府・市の行政と地域の金融経済・企業について学ぶ 本授業は、京都府庁、京都市役所総合企画局、日本銀行京都支店、そして京都の地域企業さまのご協力のもと、各々ご担当者を招聘して組み立てられている。 |
| 地域連携講座 A2 | 大妻女子大学 (表 真美) | 後期 集中講義 | 大妻女子大学「地域文化理解1」 この授業では益々多様化する社会の価値観に対し、世界と日本そして地域社会とその文化特質に関し特にサービス&ホスピタリティの視点から、その中心的産業の第一線で活躍するゲスト講師の講義と各企業へのフィールドワークを通して、自らの価値観醸成を目的とする。 |
| 地域連携講座 B1 | 2021 年度不開講 | | |
| 地域連携講座 B2 | 中山 玲子 | 前期／月 2 | 京都の社会と連携活動 京都市が直面する課題を多角的視点から理解し、課題解決に向けて学生自身が地域貢献活動に主体的に取り組むよう促進する。 |
| 産学連携講座 A1 | 株式会社三井住友銀行 (寄附講義) | 後期／水 6 | 持続可能な社会の実現を果たす民間金融機関の役割 三井住友銀行及びそのグループ会社での事業内容を素材にしながら、これらの様々な事業の仕組みを解説するとともに、今後の社会生活や資産形成に必要な知識を習得する。 |
| 産学連携講座 A2 | 野村證券株式会社 (寄附講義) | 後期／火 6 | 基礎知識としくみの理解 資本市場に求められる役割とは何か。激変する日本の資本市場の全容と投資のリスク&リターンを考え方、株式投資・債券投資・ポートフォリオ運用・外国為替相場など証券投資における重要なテーマを実務の観点から解説する。 |
| 産学連携講座 B1 | 株式会社朝日新聞社 (寄附講義) | 前期／火 5 | 新聞を通じて現代社会の諸問題について理解を深め、社会に対する問題意識を養う 現役の新聞記者が様々な社会問題をテーマに複数回、講義をする。学生はそれぞれの意見を小論文として提出。講師が全員分を添削し講評する。 |
| 産学連携講座 B2 | Daigas エナジー株式会社 (寄附講義) | 前期／木 6 | エネルギーを通してみる社会変化と環境対策 ガス・電気の基礎知識（ガスの輸入先や供給方法）、国のエネルギー施策、時代の背景等についての解説を加えながら身近なエネルギーから環境問題、社会情勢について関する考える機会とする。 |
| 産学連携講座 B3 | 連合京都・企業各組織 (烏蘭格日楽) | 前期／木 2 | 働く女性のための基礎講座 働くことについての課題を多角的視点から理解し、かつ課題解決に向けて学生自身が主体的に取り組むこと、自らの働き方を学生が考え行動できるように促進する。 |
| 連携課題研究 | 桂 まに子 | 通年 集中講義 | 地域連携課題を発見し、情報技術を活かした問題解決策を考える 地域や企業、公共施設等との連携の課題を整理し、プロジェクトテーマを設定し、受講生のこれまでの学びや情報技術を活かした問題解決を試みる。 |
| 連携課題研究 | 宮原 佑貴子 | 通年 集中講義 | 京都の伝統的染織産業の参加体験型課題研究 京都の伝統的産業である着物の染色技術の奥深さを知るとともに、現代の課題を発見し、解決に導く手法を考察する。 |

連携活動入門

連携活動事始め～連携活動にチャレンジ～

【担当教員】竹安 栄子

【授業形態】オンデマンド型授業

【授業の到達目標】

1. 連携活動の社会的意義について理解する。
2. 連携活動の基礎知識を身につける。
3. 連携活動への従事が自分の成長を促すものであることを体験する。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション

第2回 I. イントロダクション

II. 地域社会を知ろう

1. 連携活動とは？なぜ、今求められるのか
2. 「地域社会」の構造と地域課題：京都市東山区を事例に

第3回 II. 地域社会を知ろう

3. 京都市を学ぶ
ゲストスピーカー：京都市役所総合政策局

第4回 II. 地域社会を知ろう

4. 京都市の大学政策
ゲストスピーカー：大学コンソーシアム京都

第5回 II. 地域社会を知ろう

5. 東山区ウォーキングのためのオリエンテーション
 - ①大学の周辺地域（馬町から六原地区、今熊野商店街）を歩く
 - ②祇園新橋地区を歩く
 - ③連携活動に求められる倫理事項

第6回・第7回 II. 地域社会を知ろう

6. 東山区ウォーキング：多様な顔をもつ東山区
 - ①大学の周辺地域（馬町から六原地区、今熊野商店街）を歩く
 - ②祇園新橋地区を歩く

第8回 III. 人口減少社会の地域課題

7. 人口減少と女性の社会参画
 - ①日本の近未来の姿
 - ②女性の社会参画

第9回 IV. 市民によるまちづくり活動

8. まちづくりの担い手としての市民
 - ①京都のまちづくり
 - ②町内会を中心とした活動

第10回 V. 京都女子大学の連携活動

9. 京都女子大学地域連携研究センターの社会連携活動

第11回 VI. 企業の社会的責任

10. CSR と SDGs

- ①なぜ CSR なのか
- ② CSR の歴史
- ③ SDGs と企業

第12回 VI. 企業の社会的責任

11. 企業の連携活動：地域創生とダイバーシティの推進
ゲストスピーカー：① NTT 西日本「NTT 西日本における SDGs の取り組み」

第13回 VI. 企業の社会的責任

12. 企業の連携活動：地域創生とダイバーシティの推進
ゲストスピーカー：② NTT 西日本「地方創生にむけた、地域と企業の連携活動（CSV）の取り組み」

第14回 VII. 連携活動実践

第15回 実践活動体験発表会

祇園新橋で、地域イベントを手伝う学生



地域連携講座 A1

京都府・市の行政と地域の金融経済・企業について学ぶ

【担当】 京都府庁・京都市役所・日本銀行（寄附講義）（鳥谷 一生）

【授業の形態】 オンデマンド型授業

【授業の到達目標】

1. 日本経済の中の京都経済の位置を理解する。
2. 京都市の地域振興策について理解する。
3. 中央銀行である日本銀行の立場から京都・滋賀経済について考えてみる。
4. 地域企業の現実を知る。
5. 社会人として女性活躍のキャリア・デザインを考えてみる。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス / 経済と金融の仕組み
- 第2回 株式会社と証券市場
- 第3回 財政制度と地方公共団体の役割
- 第4回 京都府 京都で働く 雇用・産業
- 第5回 京都府 京都で働く 女性活躍 wLB 推進
- 第6回 京都市役所 京都市の産業構造と産業振興策
- 第7回 京都市役所 わたしたちの伝統産業
- 第8回 日本銀行 日本銀行の業務と金融政策—日本銀行の沿革、業務、金融政策の枠組みについて—
- 第9回 日本銀行 最近の金融経済動向—全国および京都府・滋賀県の景気動向（現状・先行き）について—
- 第10回 中間取りまとめ
- 第11回 京都の地域企業を知る
- 第12回 京都の地域企業を知る
- 第13回 京都の地域企業を知る
- 第14回 社会人としてのキャリア・デザインを考える
- 第15回 全体総括

地域連携講座 B2

京都の社会と連携活動

【担当】 中山 玲子

【授業の形態】 対面型授業

【授業の到達目標】

1. 地域社会としての京都の実態を理解する。
2. 京都を事例として、現代の日本の地域社会が抱える

課題を理解する。

3. 地域社会の多角的側面を理解する。
4. 行政をはじめとした各種分野の実態を理解する。
5. 地域社会が市民の力で成り立っていることを理解する。
6. 学生が地域社会の構成員として行動することが社会から期待されていることを理解する。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 京都女子大学が取り組んでいる地域連携や貢献活動について
- 第3回 京都市役所：京都市の概要と京都市役所の役割について
- 第4回 東山区役所：市次期東山区基本計画「住んでこそ！東山プロジェクト」
- 第5回 京都刑務所：犯罪者の再犯率と市民としてできること・更正について
- 第6回 NPO 京都景観フォーラム：京都の景観の維持・保全について
- 第7回 京都保護観察所：軽犯罪を犯した青少年や刑期を終えた人たちの生活と更生を支える制度や更生活動
- 第8回 京都銀行：地方銀行と都市銀行の違いと地方銀行の地域経済に果たす役割
- 第9回 招徳酒造：伏見の酒造業の歴史から学ぶ現状と課題
- 第10回 ハイアットリージェンシー京都：グローバル企業としての理念や「京都」のハイアットとしての特徴と経営、グローバル企業から見た京都の観光について
- 第11回 京都市中央卸売市場：「京の台所」を支える中央卸売市場の機能と役割
- 第12回 朝日新聞社：全国紙と地方紙の違い、新聞が地域社会に果たす役割、記者の目から見た地域社会について
- 第13回 東山区社会福祉協議会：高齢化率 33%の東山区での高齢者の生活実態と社会福祉の最前線
- 第14回 京都ジョブパーク：本学学生の就職状況や就活の現状を通して京都の産業を考える
- 第15回 総括

産学連携講座 A1

三井住友銀行による寄附講義

持続可能な社会の実現を果たす

民間金融機関の役割

【担当】株式会社三井住友銀行（寄附講義）

【授業の形態】オンデマンド型授業

【授業の到達目標】

1. 融グループの役割と国内外の社会環境についての理解。
2. 受講者自身の今後の資産形成に必要なとなる知識の習得。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 身近なお金シリーズ①ライフデザインを考える
- 第3回 身近なお金シリーズ②女性の生き方の多様性とお金について
- 第4回 身近なお金シリーズ③資産形成をする際に気を付けることは
- 第5回 身近なお金シリーズ④消費者から見たキャッシュレス
- 第6回 身近なお金シリーズ⑤事業者から見たキャッシュレス
- 第7回 身近なお金シリーズ⑥万が一に備える保険って？
- 第8回 身近なお金シリーズ⑦運用の必要性を考える
- 第9回 日本の年金制度について
- 第10回 高齢化社会を考える 相続・遺言信託について
- 第11回 信託業務とは？
- 第12回 意外と身近なシリーズ①リースとは？
- 第13回 意外と身近なシリーズ②ローン・クレジット
- 第14回 働き方改革
- 第15回 京都女子大学 OG の講話 総論

産学連携講座 A2

基礎知識としくみの理解

【担当】野村證券株式会社（寄附講義）

【授業の形態】オンデマンド型授業

【授業の到達目標】

証券・金融市場関連のテーマを中心とする講義を通じて、社会・経済の動向に関する見聞を広め、今後の社会生活や資産形成の際に必要なとなる知識を習得する。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス・経済情報の捉え方
- 第2回 金融資本市場の役割とその変化
- 第3回 債券市場の役割と投資の考え方
- 第4回 外国為替相場とその変動要因
- 第5回 株式市場の役割と投資の考え方
- 第6回 投資信託の役割とその仕組み
- 第7回 証券投資のリスク・リターン
- 第8回 ポートフォリオ・マネジメント
- 第9回 日本の株式市場史
- 第10回 資本市場における投資家心理
- 第11回 企業と SDGs
- 第12回 産業展望と投資の考え方
- 第13回 ライフプランニングと資産形成
- 第14回 資産形成と非課税制度
- 第15回 まとめ

産学連携講座 B1

新聞を通じて、現代社会の諸問題について理解を深め、社会に対する問題意識を養う

【担当】株式会社朝日新聞社（寄附講義）

【授業の形態】対面型授業

【授業の到達目標】

1. 新聞を通し情報リテラシーを高める。
2. 社会問題について「自分の意見」「新たな視点」を持つ。
3. 社会で求められる「書く力」「伝える力」を養う。

【授業計画】

- 第1回 メディアの伝え方
- 第2回 ニュースの価値・新聞の読み方
- 第3回 コミュニケーションと就活
- 第4回 文章の書き方①
- 第5回 震災報道から学ぶ①
- 第6回 震災報道から学ぶ②
- 第7回 国内問題を考える
- 第8回 文章の書き方②
- 第9回 国際問題を考える
- 第10回 文章の書き方③
- 第11回 社会人に聞く
- 第12回 インタビューの手法
- 第13回 アウトプットの方法
- 第14回 選挙と世論調査
- 第15回 講義まとめ

産学連携講座 B2

エネルギーを通してみる社会変化と環境対策

【担当】 Daigas エナジー株式会社（寄附講義）

【授業の形態】 オンデマンド型授業

【授業の到達目標】

電気・ガスを中心にエネルギーを通じて、日本・世界の抱える環境問題や社会情勢に関する見聞を広め、今後の社会生活に必要な知識を習得する。

【授業計画】

- 第1回 関西のガス事業の歴史
- 第2回 都市・地域・住まいとエネルギー①
- 第3回 都市・地域・住まいとエネルギー②
- 第4回 都市・地域・住まいとエネルギー③
- 第5回 住まいとエネルギー
- 第6回 コミュニティと文化（小テスト）
- 第7回 天然ガスの調達について
- 第8回 世界における天然ガス利用等の概況
- 第9回 日本のエネルギー政策について
- 第10回 ガス家庭用機器開発について
- 第11回 ガス事業者のPR戦略
- 第12回 ガス事業者の温暖化対策の取り組み
- 第13回 温暖化対策に向けた世界の動向と日本の政策
- 第14回 ガス事業者による保安の取り組み
- 第15回 エネルギー会社と地域共創（小テスト）

産学連携講座 B3

働く女性のための基礎講座

【担当】 烏蘭格日楽

【授業の形態】 対面型授業

【授業の到達目標】

1. 働く上で知っておくべき基礎知識を習得する。
2. 働く楽しさや労働環境の実態を学ぶ。
3. 将来働くことに備えて、職業や企業を選択できる力を養う。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 労働者の権利を知る：労働組合とは
- 第3回 ワークルールを考える 1：賃金制度・法規制に

ついて

- 第4回 ワークルールを考える 2：労働時間、ワーク・ライフ・バランスについての法律
- 第5回 ワークルールを考える 3：正規・非正規雇用の雇用形態の違いおよび法規制
- 第6回 ワークルールを考える 4：雇用における男女平等やハラスメントについて
- 第7回 職場の現状と課題 1（公務職）
- 第8回 職場の現状と課題 2（教職）
- 第9回 京都の労働者の状況と相談窓口
- 第10回 職場の現状と課題 3（情報産業）
- 第11回 職場の現状と課題 4（小売業）
- 第12回 職場の現状と課題 5（製造業）
- 第13回 職場の現状と課題 6（金融業（生保業界））
- 第14回 労働者の生活設計を考える
- 第15回 全体のまとめ（担当教員、連合京都）

連携課題研究

地域連携課題を発見し、情報技術を活かした問題解決策を考える

【担当教員】 桂 まに子

【授業の形態】 対面授業&遠隔双方向型授業

【授業の到達目標】

1. 地域課題の探索。
2. 研究テーマに関する情報収集。
（文献、ウェブ、現地、関係者など）
3. 情報技術を用いた編集・発信。
（Wikipedia、OpenStreetMap など）
4. 自ら発信した経験をもとに、連携活動を進展させるための提案を行う。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション：Problem Based Learning について
- 第2回 地域や企業との連携課題について整理する
- 第3回 プロジェクト準備（連携課題テーマの設定、情報収集）
- 第4回 Wikipedia を用いた地域情報の編集・発信について
- 第5回 OpenStreetMap を用いた地域情報の編集・発信について
- 第6回 プロジェクト設計（ミニプレゼンテーション、ディスカッション）
- 第7回 プロジェクト実行（1）

- 第8回 プロジェクト実行 (2)
- 第9回 プロジェクト実行 (3)
- 第10回 中間報告 (ミニプレゼンテーション、ディスカッション)
- 第11回 プロジェクト実行 (4)
- 第12回 プロジェクト実行 (5)
- 第13回 プロジェクト実行 (6)
- 第14回 研究レポートの作成
- 第15回 最終報告・講評 (最終プレゼンテーション、ディスカッション)

連携課題研究

京都の伝統的染織産業の参加体験型課題研究

【担当教員】宮原 佑貴子

【授業の形態】対面型授業

【授業の到達目標】

1. 京都の伝統的染織産業の技術や背景についての知識を得る。
2. 染織技術を体験し、固有の魅力や特色について知る。
3. 自らの体験と知識を融合し、オリジナルの提案と発表をおこなう。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション：京都の伝統染織産業と京都女子大学の取り組み
- 第2回 京都の伝統的染色技法：特別講義「マドレー染の変遷と技術について」
- 第3回 工房訪問 (株式会社マドレー)
- 第4回 工房訪問
- 第5回 連携課題の整理と分析
- 第6回 伝統的産業を活用した取り組みについてのリサーチ、発表
- 第7回 染色技術の体験について (事前学習)
- 第8回 染色技術の体験と取材 (準備、設営)
- 第9回 染色技術の体験と取材 (ロールプレイング)
- 第10回 染色技術の体験と取材 (実施)
- 第11回 染色技術の体験と取材 (取材)
- 第12回 染色技術の体験と取材 (聞き取り調査)
- 第13回 調体験の振り返り、フィードバック
- 第14回 プラン提案の企画書作成
- 第15回 プラン提案の発表、合評

学生の地域活動への参加

～地域と学生の win-win な関係～

連携活動入門活動では、祇園新橋景観づくり協議会が行う清掃や地域イベントなど実際の地域活動に学生が参加している。コロナ禍で、多くの地域イベントが中止となる中、2021年度は、11月28日(日)落ち葉のお掃除と12月3日(金)火焚祭に参加することができた。

地域活動の合間には、世話役の方が、毎回、学生に向けて、景観を維持する取り組みや地域の文化、伝統について熱心に説明していただき、学生たちは、地域の方とのコミュニケーションを深めている。

参加した学生からは、「地域の景観はこうやって、市民によって守られてきたんだということが、実感できた。」「京都の大学へ来て、実際にその文化に触れる機会を持てて楽しかった。」「地元に戻っても、このような地域ぐるみの活動が出来ないかと考えた。」などの声が聞かれ、自ら参加し、考える貴重な機会を得ている。

地域の方からも、「若い方の力、お手伝いで地域が活気づく。」「この地区の景観保全に理解を持ち、卒業後も訪れてくれると嬉しい。」と感謝の言葉をいただいている。



▲清掃のあとで記念撮影(元吉町まちづくりニュースより)

○女性リーダー養成プログラムとは

2017年から開講した女性リーダー養成プログラムは、各学科、専攻で習得した専門性に加えて、地域課題の発見能力、問題解決能力、実践力を備えた行動できる女性、地域リーダーとなり得る女性の養成を目的としている。2019年以降に入学の学生には、共通領域副専攻プログラムとなっている。

2021 年度 連携プロジェクト補助事業一覧

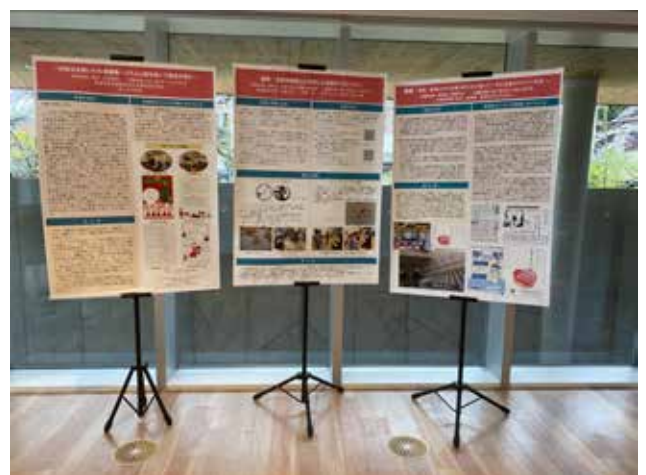
| 事業名 | 申請者 | 連携先 | イシュー別 4 領域のうち該当する領域 |
|--|---------|---|-----------------------------|
| 東山区住民の防災力向上支援プロジェクト 【→ P9 ～ P10】 | 岩崎 保之 | 特定非営利活動法人ふるさと未来創造堂 日本赤十字社京都府支部 京都市立開晴小中学校 | ①子育てと高齢者支援 ②安心安全・まちづくり支援 |
| 呼吸法を用いた生涯教育 ～リズムと歌を用いて感性を育む～ 【→ P11 ～ P12】 | ガハブカ 奈美 | 社会福祉法人 京都市東山区社会福祉協議会 NPO 法人「音の風」 | ①子育てと高齢者支援 |
| 京都刑務所との木育による造形プロジェクト 【→ P13 ～ P14】 | 矢野 真 | 京都刑務所 | ①子育てと高齢者支援 |
| 電車／駅構内での性暴力防止を目指して －学生目線のポスター作成－ 【→ P15 ～ P16】 | 市川 ひろみ | 阪急電気鉄道株式会社・都市交通事業本部 運輸部 | ②安心安全・まちづくり支援 |

連携プロジェクト補助事業 2021 パネル展示

コロナ禍で、思うような連携活動の展開が難しかったが、本年度も交流の床 2 階スペースに、3 名の先生の活動内容をポスターにして、2022 年 2 月～3 月末までの 2 か月間掲出した。

件数自体は少なかったが、継続した取り組みが実施できたことは有意義であり、学内に連携活動を広く知っていただくきっかけになった。

ポスターを目にした学生からは、「様々な学科で、多様な地域活動への取り組みがあることを知った。」「自分も機会があれば、是非、参加してみたいと思った。」という声が聞かれた。



東山区住民の防災力向上支援プロジェクト

●連携先：特定非営利活動法人ふるさと未来創造堂・日本赤十字社京都府支部・京都市立開晴小中学校

発達教育学部 教育学科 教授 岩崎 保之

1. 背景・目的

本学が立地する東山区は、地震発生時に大きな被害が予想されている地域である。また、近年では地震以外の自然災害が発生する危険性も高くなっている。

本学の校舎は避難所や福祉避難所としての指定を受けていることから、平常時から本学が地域と連携して防災教育を実施したり、防災体制を構築したりすることが望まれる。

そこで、本プロジェクトは、本学の持つリソースを活かし、東山区の学校教職員や住民を対象とした防災教育を企画・実施することを通して、本学と地域との防災に関するネットワークを構築したり、相互の協力体制を構築したりする一助となることを目的として実施した。

学生の多くは学生寮をはじめとして東山区内に居住していることから、学生が地域防災への関心を高めることは東山区全体の防災力の強化にもつながると考えた。

2. 推進組織

本プロジェクトの発起人は、岩崎保之（発達教育学部教育学科教授）、大川尚子（同学科教授）、鈴木依子（家政学部生活福祉学科教授）の3人であった。

発起人の呼び掛けに応じて参画したスタッフは、養護教諭、社会福祉士やスクールソーシャルワーカーなどの対人援助職を目指している学生33人（4回生10人・3回生23人）であった。

本プロジェクトの推進に際しては、学外の専門機関による監修を受けた。防災に関しては特定非営利活動法人 ふるさと未来創造堂に、救急法に関しては日本赤十字社京都府支部に依頼し、企画の段階から助言を頂いた。

また、地域との連携に関して、本学が立地する修道学区と今熊野学区の自治会関係者、本学の近隣にある京都市立開晴小中学校と社会福祉法人京都市東山区社会福祉協議会に趣旨と計画を説明し、連携・協力を依頼した。さらに、本学発達教育学部の研修員である大西祐子氏（京都府立木津高等学校）に学生に対する養護教諭の立場からの指導・助言を依頼し、プロジェクト全体を通じて関与していただいた。

スタッフミーティングは、全てオンライン（Zoom ミーティング）で行った。また、文書、写真や動画のファイルは、OneDriveなどのオンラインストレージで共有しながら活動を進めた。

3. 活動の実際

本プロジェクトでは、救急法出前講座、防災講演会、防

災フェスタの3つを主な活動として計画した。以下、それぞれの概要を報告する。

3-1 救急法出前講座

2021年5月27日（木）午後、京都市立開晴小中学校の教職員80人を対象としてオンライン（Zoom ミーティング）で実施した。

講師となった学生10人（4回生）は、授業や救急法講習会（日本赤十字社）において救急法に関する知識・技術を習得している。オンラインによる指導に関しては、2020年度から本プロジェクトとは別に実施している京都女子大学学長採択プロジェクト「養護教諭を目指す京女生の『ICT活用指導力』向上プロジェクト」の取組を通して、実践的なノウハウを蓄積している。

当日は、学生がICTを活用した応急手当のプレゼンテーションを約15分間行った後、受講生である教職員が10教室に分かれて約40分間、胸骨圧迫とAED装着の演習を行った。

教室ごとに個別のZoom ミーティングに入り、教職員は大型モニターを見ながら、学生はタブレット型PCなどによる教室からの中継を見ながら演習を進めた。

3-2 防災講演会

2021年10月20日（水）午後、本プロジェクトの監修を依頼した中野雅嗣氏（特定非営利活動法人ふるさと未来創造堂常務理事兼事務局長）から、「過去の被災経験から考える、いのちを、人権を守る地域防災の取組」を演題とした講義をオンライン（Zoom ミーティング）で受けた。参加者は、本学の学生や教職員を中心とする約60人であった。

中野氏は、中越／中越沖地震や東日本大震災などでの避難所の実例に言及しながら、命を守る備え、中長期の避難所運営で大切なこと、住民自治による避難所運営を解説した。災害が発生すれば住民はもちろん行政職員も

同じ被災者である。避難所に集まった被災者が自らの人生経験と想像力を活かし、全員の命と人権を守る避難所にしていくことが大切であることを訴えていた。

3-3 防災フェスタ

2021年12月8日（水）午後、本学T校舎を会場として開催した。

来場者は、全45人（指導教員とスタッフ学生を除く）であった。その内訳は、修道学区・今熊野学区の自治会関係

者7人、他学区の住民1人、東山区長・副区長を含む行政・団体・企業の関係者14人、京都女子学園同窓会事務局の職員3人、学長・副学長を含む本学の教職員20人であった（順不同）。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、来場者には受付で検温やアルコール消毒を依頼するとともに、健康状態のチェックと連絡先の登録を求めた。

防災フェスタの日程は、次の通りであった。

- ① 13:00~14:00 災害備蓄品見学ツアー
- ② 14:00~14:40 防災ブース見学（前半）
- ③ 14:45~15:45 地域防災研修会
- ④ 15:50~16:30 防災ブース見学（後半）

①は、希望者を岩崎が引率し、本学が災害備蓄品を保管しているS校舎駐車場、図書館倉庫、体育館倉庫を見て回った。

③は、防災講演会で講師を務めた中野氏より指導を受けながら、HUG（避難所運営シミュレーションゲーム）を用いた研修を行った。修道学区と今熊野学区の関係者並びに本学学生や教職員など約20人が対面で、各ブースを運営する学生や京都市東山区社会福祉協議会の利用者がZoomミーティングによるオンライン中継で参加した。

②と④は、防災や救急法に関する企画・実演であり、7つのブースを設けた。参加者の密を避けるために同じ内容を前半と後半の2回に分けて実施した。



| | |
|------|-----------------------|
| ブース1 | 災害が起こったときにあなたが支援できること |
| ブース2 | 災害時の応急手当 |
| ブース3 | 手作り防災グッズ |
| ブース4 | 防災食を知って食べよう！ |
| ブース5 | 防災実験 |
| ブース6 | オンライン避難所 |
| ブース7 | 心肺蘇生法（含・AED体験） |

これら7つのブースのうち、ブース1は、日本赤十字社京都府支部が演習を担当した。また、ブース4では、尾西食品株式会社から防災食（備蓄食）サンプルの提供とパネ

ル展示を、参加自治会からも災害備蓄品の提供を受けた。

4. 成果・今後の展望

本プロジェクトに参加した学生を対象として活動後に行ったアンケート調査では、【防災・減災への関心】と【避難所の制度・運営に関する理解】に関する項目が高く評価されていた。参加した学生にとって、本プロジェクトは授業で学修した学校安全や防災に関する知識・技術を体験的に学び直す機会となった。

また、地域の関係機関や住民と協働した経験は、学生にとって、他職種との連携や対人関係の構築といった対人援助職に必要な資質・能力を実践的に高める機会ともなった。

さらに、防災フェスタの会場では、本学・地域・東山区役所や諸機関・企業などの関係者が東山に縁のある「人」として、それぞれの立場を超えた「顔の見える関係」を築いておられた。本プロジェクトが目的とした「本学と地域との防災に関するネットワークを構築したり、相互の協力体制を構築したりする一助となること」は、十分に達成できたものと考えている。

一般的に「防災」は、学校にとっても地域にとっても「取り組まなければならない」切実感を伴うことから、両者が連携・協働しやすいテーマである。そして、継続した取組が求められるテーマでもある。

この観点において、今後は学生に対してサークル活動などへの組織化を促すことを通して、本学や地域の防災力向上に貢献していくとともに、学生が自発的・自主的に防災に関する意識や対人援助職としての資質・能力を高めていけるよう支援していきたい。

最後になりましたが、本プロジェクトにご指導・ご協力を頂いた皆様に、心から感謝申し上げます。



文献 岩崎保之・大川尚子・鈴木依子・中野雅嗣（2022）「対人援助職として必要な資質・能力の育成を目指した防災教育—『東山区住民の防災力向上支援プロジェクト』実践報告—」『京都女子大学教職支援センター研究紀要』第4号、125-133ページ。

呼吸法を用いた生涯教育 ～リズムと歌を用いて感性を育む～

●連携先：社会福祉法人京都市東山区社会福祉協議会・NPO法人「音の風」

発達教育学部教育学科・音楽教育学専攻 教授 ガハプカ 奈美

実施の背景と目的

これまで呼吸法と歌唱を関連付けて活動を継続して行ってきたが、昨年度においてはコロナ禍により様々な変更を余儀なくされた。

本年度もコロナ禍での活動には変わらないため、本年度においては、その内容の意義は引継ぎつつ、皆が健康で安全に活動できるような内容に変更をしたいと考え、活動の内容をすべて訪問演奏時と同様にナレーション等も付けながら演奏をする様子を DVD に収め、各施設へお送りすることにした。

内容には、呼吸法の体験した後 ①リズム体験 ②かけ声体験 ③歌唱体験を通して楽しむことにより、呼吸を意識せずして、呼吸の良い流れを身につけることが出来、その後の演奏を聴きながら自然な形で共に歌唱したり、一緒に歌うコーナーを設けたり、意識的に共に歌唱することを楽しめるよう目指した。

その背景には、「教育基本法」第3条に『国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることが出来るよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に活かすことのできる社会の実現が図られなければならない』とあり、学生が学ぶこと、あるいは「音楽振興法」にある『音楽から生涯学習を考えるとときに欠かせないものであることである』ことを体験し感じることで自発的な活動へと導く目的があったためである。

生涯学習が国際的に比較しても平均寿命の高い位置にある日本において大切な概念としてとらえられ、参加するすべての人々において教育が学校内のみで完結するものではないことを音楽を通して学ぶことを目的とした。

事業執行における問題点と工夫点

本事業はゼミの継続活動として行ってきたが、コロナ禍という事で、この2年間の活動では訪問演奏が出来ないため、事業継続自体困難を極めた。今年度も同様にコロナ禍であり、様々な施設 - 特に高齢者施設には、身内者であつても中々訪問さえも許されない中、我々のように歌唱によって飛沫を伴う活動をする者たちは訪問自体出来ないという大きな問題があつた。

そこで本年度は、3回生ゼミ生らで事前にコロナ禍での音楽活動がいかにあるべきかを話し合い、我々に出来る事、工夫は何かを考えた。

結果、「我々が困難、と感じているのは、訪問演奏を基本として考えるために出てくる問題である」という事に気が

ついたことで、訪問するのではなく、最初から DVD を作成し、郵送するためのプログラムを考えたと、演奏したり、MC を考えたりしてはどうかという意見に皆が賛同し、本年度は演奏会自体を郵送することに決定した。

それら決定事項に対し、連携先である、京都市東山区福祉協議会および NPO 法人音の風へお願いをしたところ、以下のように多くの送付先をリストアップ下さった。

・児童施設 15 か所・障害者施設 7 か所・高齢者施設 12 か所・東山区内すこやか学級 11 か所・音の風関係 2 か所 合計 47 か所。

これまでの訪問演奏では、訪問に伴う時間的制約が多く、年間 2～3 件が限界であつたが、DVD の郵送をすることで、訪問するよりも、もっと多くの方々へ我々の音楽をお届けすることが出来るという非常に前向きな結果に至った。

撮影に際して

計画当初の内容は、実施の背景と目的にも示した通り、呼吸法の体験をした後 ①リズム体験 ②かけ声体験 ③歌唱体験を通して楽しむことにより、呼吸を意識せずして、呼吸の良い流れを身につけることが出来、その後の演奏を聴きながら自然な形で共に歌唱したり、一緒に歌えたりするコーナーを設け、意識的に共に歌唱することを楽しめることを目指していたが、呼吸法、やかけ声体験、歌唱体験等は、各所（多人数集合した状態）での飛沫を伴う活動となってしまう可能性があるため、DVD に収録したとしても行っていないだけと考え、今年度は次のようなプログラムへ変更した。

①呼吸法 ⇒ 〈幸せなら手をたたこう〉の楽曲内に出てくる動きと一緒に“パンパン、トントン・…”など手を叩いたりしながら視聴してもらう事で場の雰囲気や和み、リラックスした呼吸が流れる。

②かけ声体験 ⇒ 〈となりのトトロ〉リコーダーを用いて演奏することで、皆が知っている楽曲を演奏することで心の中で一緒に歌ってもらう。

③歌唱体験 ⇒ 〈崖の上のポニョ〉を用いて振付指導をした後に「歌を聴きながら振付をしてください」と伝え、自分も一緒に歌唱しているかのような感覚になってもらう。

④動きが付いた歌唱視聴の後に、ピアノの演奏（連弾）を視聴してもらう事で、その後メインとした楽曲を良い気持ちで聴いてもらえるようにする。

など、当初予定していたような、呼吸法、かけ声体験などしなくても、DVD を視聴していただくことでそれらも体験するような感覚になれるように工夫をした。

準備から完成まで

これまでは当日訪問して配布をしていたプログラムおよび歌詞カードは、事前に12頁の冊子を作成し、各送付先へ複数冊（DVD1枚につき3～5冊）を同封し、画面の向こうで手に取ってご覧いただけるようにした。

冊子はそれぞれの頁で工夫が見られ、学生らは会う事が出来ない方々といかにコミュニケーションを取ることが出来るかを考える非常に良い機会となった。

まず最初に、昨年度までの活動履歴を観ながら、コロナ禍で自分たちが出来ることは何かをまず考えた。その後はどのようなプログラム構成が幅広い年齢層の視聴者に楽しんでもらえるかを話し合った。（写真1）その後、各自の歌唱や楽器の役割を決定し、各自練習を行った。



写真1：様々な楽譜を用いてプログラムの検討を行う様子



写真2：会場設営の検討を行う様子

写真2は、普段は机と椅子が並んでいる講義室でプログラム内容にあった飾りつけを工夫し、ビデオカメラのアングルを決定する様子である。

次に送付した冊子の内容の工夫については前述のように、呼吸法やかけ声体験等が出来なくなったため、特に演奏順に工夫を凝らしたプログラムである。（写真3）プログラム順にも気を配ったが、冊子になって視聴者が見たときに、これから始まる演奏映像が楽しみになるようなイラストを載せることでその気持ちを表した。

次項には、奏者5名の自己紹介文を載せた。例年は、演奏の前に口頭で自己紹介をして、名前を知っていただくこと

で親近感を持って演奏会に参加いただくという工夫をしてきたが、映像では難しいため、奏者の自己紹介文を載せ、



写真3：冊子-プログラム



写真4：冊子-自己紹介文

画面を通して親しみやすいように工夫をした。（写真4）

また、奏者の自己紹介にとどまらず、送付先の皆さんにもっと身近に感じていただけるように、今回の演奏曲の中で自分たちが感じていることをQ & A形式にして読みやすく工夫をした。（写真5）



写真5：冊子-Q & A

— 内容紹介 —

Q & A『一番好きな曲は?』

『いつも何度でも』歌詞がとても素敵だからです。勇気づけられる歌詞がこの曲にはたくさん出てくるので、自然と元気になれる曲で大好きです。

『ふるさと』私たちの歌声だけでお届けするふるさとがとても気に入っています。お楽しみください!

など親しみやすいように記述も工夫した。

まとめと今後の見通し

本来、演奏会是对面で行われるのが、演奏者にとっても、聴衆にとっても一番良い事であるかも知れないと考えてきた。しかしコロナ禍にあって、それが困難であるならば、本活動のように、対面をしないことを前提にした活動の可能性を探る事や、今出来る事に合わせた工夫を重ねることで、訪問演奏だけでは聴いていただけなかった方々にも、連携先である、京都市東山区福祉協議会やNPO法人音の風等のご協力のもと、多くの方々に聴いていただくことが出来た。お送りした施設からは多くの喜びの声が寄せられ、我々のこのような活動であれば、演奏ホール等へ出かけることに困難を感じている方々にも音楽の楽しさを伝える事が可能となることを身をもって学んだ。

今後コロナ禍でなくとも様々な要因で演奏ホールやイベントへ足を運ぶことが出来ない方々にも音楽の楽しさを知っていただけるような活動を今後も続けて行きたい。

京都刑務所との木育による造形プロジェクト

●連携先：京都刑務所

発達教育学部 児童学科 教授 矢野 真
4 回生 杉本ひいな

事業の背景と目的

京都女子大学と京都刑務所の連携協定の一環として、刑務所が主催する「京都矯正展」に平成 28 年度より造形ワークショップ（ワクワク木育キャラバン）として連携を行ってきた。しかし、昨年度・今年度と新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、対面による造形ワークショップができない状況となった。

こうした状況を踏まえ、対面による刑務所との連携の代替として木工玩具の制作を行い、それを地域の幼稚園・保育園に寄贈することにより、これまでの事業につながる連携に切り替え、検討を行った。

そこで、本事業は京都刑務所との協定による、造形ワークショップ“ワクワク木育キャラバン”を通して、活動の導入動画と学生デザインの木工玩具の制作を行い、学生たちの「保育者の専門性」としてのコミュニケーション能力の育成を図るための造形教材を検討することにより、地域へ貢献することを本事業の目的とする。

事業の方法

本事業では、対面形式のワークショップに代わる木育教材として、事前に制作した玩具を幼稚園・保育園に寄贈し、子どもが遊ぶ姿を先生方からアンケートを通じてフィードバックしてもらう方法で検討を行った。

そこで計画では、

- ①コマとぶんぶんゴマのデザインを学生（4 回生・10 名）が行う
- ②そのデザインをもとに京都刑務所内の作業部門で国産材の桧を使って制作する
- ③活動の導入（遊び方を含む）として学生による木育動画を作成し、コマを園に配布する
- ④子どもたちの反応について、アンケートフォームを用いた園からのフィードバックを行う
といった手順で行った。



<動画 QR コード>



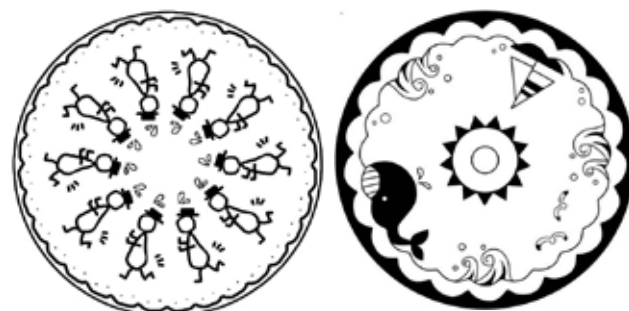
<アンケート QR コード>

なお、調査協力者に対し、研究の目的及びプライバシーの保護等の倫理的配慮を伝え、データの使用等について同意を得ている。

事業の成果

●コマ・ぶんぶんゴマの制作

コマ・ぶんぶんゴマのデザインを全員が考え、木材とデザインのレーザー加工を刑務所に依頼した。木育の定義に基づき、国産材の桧を用いて制作を行った。



学生のデザインの原画例

コマの総数 875 個、ぶんぶんゴマの総数 597 個が完成し、25 園程度の幼稚園・保育園に寄贈することとなった。

学生により、軸の取り付け等の検品・仕上げを一つずつ丁寧に行い、配布のために袋詰めを行った。



軸を取り付け、磨いたコマ



学生によるコマの仕上げ



手袋など感染に気配慮して仕上げを行う

●コマ・ぶんぶんゴマの寄贈

完成したコマについて、順次幼稚園・保育園に寄贈した。活動のはじめとして、東山区保育園協議会を通じて加盟園7か園に寄贈し、学生が園に出向いて子どもたちに遊び方を実践し、一緒に遊んだ。

寄贈した善立寺保育園では、園児たちが楽しく遊んでいる様子が窺われた。



善立寺保育園での寄贈の様子



ぶんぶんゴマで一緒に遊ぶ学生と子どもたち

まとめ

今回の事業では、対面による活動ができなかったものの、木育教材として固有の内容に加えて、導入動画の活用やアンケートによる検討などを通じて、対面による地域連携活動にも共通しうる、新たな学びの可能性が得られた。

本事業は継続中であり、近隣園への配布、及び学生からあげられたアンケートについての幼稚園・保育園からのフィードバックを踏まえ、更なる木育教材の作成について検討し、その効果について取りまとめる予定である。



完成したゴマ・ぶんぶんゴマ

謝辞

例年、ゼミ活動として楽しみにしている「京都矯正展」が、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、2年連続で中止を余儀なくされるなか、今回のゼミにおける提案を短い時間で快くお引き受けくださった京都刑務所処遇部作業部門の皆様には厚く御礼申し上げます。

電車／駅構内での性暴力防止を目指して —学生目線のポスター作成—

●連携先：阪急電気鉄道株式会社・都市交通事業本部 運輸部

法学部 法学科 市川 ひろみ

目的

公共交通機関である鉄道で日常的に発生している性暴力に注意喚起し、誰もが安心して利用できる環境を整える。学生は、自分たちが学んでいるジェンダーや法学の観点から、社会で当然とされていることについても、おかしいと思うことについて問題提起し、行動することで自らが社会の一員であり、社会を変える存在でもあることを実感できる経験とする。

意義

痴漢や盗撮は被害者に深刻な精神的・身体的な被害をもたらすにもかかわらず、日本社会では重大な性暴力とはみなされていない。さらには、現在の痴漢・盗撮防止呼びかけポスターは被害者となりうる人に注意喚起(混雑を避ける・スカートを手で押さえるなど)したり、被害にあった時に「助けて」と声をあげることを求めたりするものが多い。

そのようなポスターは、電車／駅構内での性暴力を抑制することには効果が望めないばかりか、被害者に自責の念を抱かせる危険性がある。

加害行為を予防するのに重要な役割を担っているのは、被害者ではなく、犯罪行為が行われている／行われそうな場に居合わせた人々である。見て見ぬふりをせず、被害者の味方であることを示すことで、被害者を孤立させず、加害者が性暴力は許容されないと実感できれば、性暴力を抑止する効果が期待できる。

京都府警鉄道警察・阪急電鉄株式会社との連携

2020年9月～10月にかけて京都府警鉄道警察隊による京都駅の痴漢・盗撮防止呼びかけの電光掲示板(2020年9月～10月)について、被害者を追いつめてしまう内容であったため、法学部の学生と一緒に考えないかと呼びかけた。そして、京都府警鉄道警察隊に学生との意見交換の機会をもつことを提案し、12月14日(月)に本学(F校舎)にて、学生9名、鉄道警察隊員4名、教員3名で意見交換を実施した。



性犯罪に向き合う警察官の方々と意見交換できたことは、学生にとっても担当者にとっても犯罪取締の現場の事情を知り、ポスター表現で注意する点などについて重要な示唆を得る貴重な機会となった。

そこで、この学びを活かすために共同でポスターなどを作成するなどの協力を模索した結果、4月には京都府警鉄道警察隊および阪急電鉄株式会社とそれぞれポスターを作成する合意に至った。2021年4月に参加学生全員で問題意識を確認する話し合いを行い、以後は、警察班と阪急班に分かれて作成した。

警察班

警察班は、大学で警察の方々と7回(90分)をかけ、ポスターの目的から表現、文言などについて意見交換し、共同でポスターを作成した。



完成したポスターは京都府警鉄道警察隊の「ちかん・盗撮 ZERO」キャンペーンに合わせて9月10日(金)に本学E校舎学生ラウンジで公表した。鉄道警察隊からは、大学・学生・教員に感謝状が贈呈された。

ポスターは府内各駅、警察署、交番等に配付・掲示されている。この取り組みについては京都新聞2021年9月27日一面トップで紹介されたのをはじめ、7社(新聞・放送局)が報道した。



阪急班

阪急電鉄株式会社とは6月から12月まで、継続的な意見交換（Zoom6回、およびメール）を経て、痴漢が深刻な性暴力であることを伝えるポスターを作成した。



一枚のポスターに掲載できる情報は限られているため、学生たちが伝えたいことと被害にあった人の精神状態など詳しい情報は、本学地域連携研究センター HP に掲載し、QR コードからアクセスできるようにした。車内および改札口付近のディスプレイ用も作成した。

12月12日に図書館交流の床で阪急の方々とともにプレゼンテーションを行った。

ポスターと駅構内ディスプレイには阪急電鉄全駅で12月27日から、車内ディスプレイには2022年1月1日から掲示された。



反響

ポスタープレゼンテーションの際には各社報道機関の取材があり、京都新聞、毎日新聞、京都民報、朝日新聞、NHK 大阪などで大きく報道された。そして、自分も痴漢被害に遭ったという女性から「声をあげてくれてありがとう」というお便りが届いた。また、痴漢対策を政策として取り組もうとしている共産党東京都議（11月3日教員のみ）、京都府議、京都市議（2月2日）の方々との意見交換（Zoomによる）も行った。

学生 8 名（法学部：4 年生 木村優希、3 年生 上原菜々子、戸口桃佳、佐々木南美、高山浅黄、戸川琴乃、の場美帆、家政学部：3 年生 小島定菜）は、京都府警鉄道警察隊の方々や阪急電鉄の方々と 3 ヶ月～5 ヶ月にわたり継続的に意見交換することで、現場の状況を理解することができた。さらに、自分たちの思いをしっかりと受けとめていただくことができ、異なる意見であってもきちんと自分たちが伝えようとする事の大切さを実感できた。また、この取り組みがメディアにも大きく取り上げられ、自分たちが感じている違和感をそのままにせず、社会に一石を投じることができた体験は、大きな自信につながった。



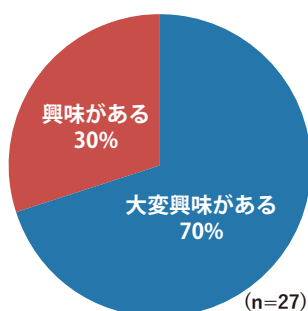
活動制限のある中で展開を工夫

京女ラウンドテーブルの開催

令和4年2月21日(月) 13時よりZoomにて「第6回京女ラウンドテーブル」が開催された。連携協定機関の11機関13名が参加し、第一部は連携活動とリカレント教育課程に関する報告と意見交換がなされた。コロナ禍の中でも、連携活動の継続に期待が寄せられた。また、第二部は、連携活動プロジェクトと学生のらじつよプロジェクトの合同成果報告会がZoomで行われ、55名の参加者を得た。参加者からは「学生の質の高い活動に驚いた。」「地域に根差した活動として定着してほしい。」などの声が聞かれた。

<参加企業からのアンケート回答より(一部)>

京都女子大学との連携活動やプロジェクトに興味がありますか。あてはまるものをおひとつだけお選びください。



京都府との取り組み：鴨川沿い行政看板への提言 (京都女子大学 京をつなぐプロジェクト)」

京をつなぐプロジェクトメンバー(本学文学部国文学科、文学部史学科、家政学部生活造形学科、法学部法学科の学生と現代社会学部諏訪教授)が、京都府土木事務所の協力を得て、鴨川沿いに設置されている行政看板(注意喚起標識、案内板等)についてアンケートを実施し、その分析を基に、日本人にも外国人にも理解されやすいグローバルな行政看板の設置について提言した。行政看板には、「世界共通である注意喚起の色彩やピクトグラムを使用すること、そして日本語だけではなく英語表記も加えたデザインを心掛ける必要がある。」と指摘し、「注意喚起標識・案内板の在り方を見直すことで、その設置環境の改善に繋がり、観光と市民生活の調和を期待できる。さらに、現在乱立している注意喚起標識・案内板の必要性を見極め、適切な場所で効果を発揮できるよう整備していくことにもつながるであろう。」と示唆している。『「鴨川沿い行政看板の分かりやすさに関する研究 - 日本人と外国人の比較調査を基に提言 - 』第17回 京都から発信する政策研究交流大会発表論文集』P54より)

なお、このプロジェクトの報告は、「第17回京都から発信する政策研究交流大会」(2021年12月19日開催)で発表され、最高賞である大学コンソーシアム京都理事長賞を受賞した。

京都銀行との取り組み

連携先機関である京都銀行と本学の学生が連携し、一般向けの金融webセミナーを共同で運営した。内容はライフプランや投資信託、資産形成や経済など多岐にわたり、大学の学びでは得られない経験学習を深めていた。

学生からは「金融や経済に興味を持つきっかけとなった。ぜひ個人でも勉強を続けていきたい。」「資産運用について考えることは自分の人生に直結するので非常に重要なことと認識した。」などの感想が寄せられた。京都銀行からは、「参加いただいた学生は、皆、大変真面目に熱心に取り組んでくれ、感心している。」「学生からの視点が新鮮で参考になった。」等の意見が寄せられた。



祇園北地区 4 町内 地蔵盆行燈絵の制作

当センターでは、NPO 法人京都景観フォーラムとの包括的な連携協定の締結を機に、国の伝統的建造物保存地区に指定されている祇園新橋地区での地域活動への参加を行ってきた。祇園新橋地区では、祇園新橋景観づくり協議会発足をめざした会議、討論への参加、協議会発足後は、写真前撮りの課題への取り組み、観光マナー向上への取り組み、地域イベントへの学生と教職員の参加などを行っている。

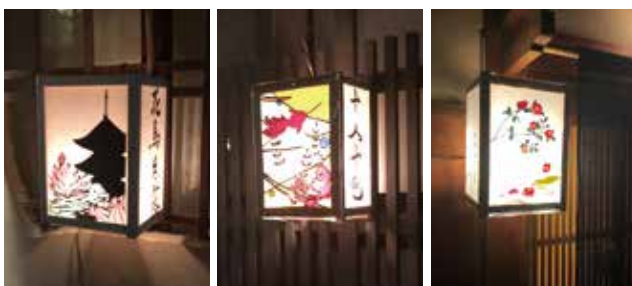


▲京都らしい風情が残る祇園新橋地区

本年度も、地域役員の方から依頼があり、本学発達教育学部矢野ゼミの学生 20 名が 20 基の行燈絵を描いた。行燈絵の制作は、3 年前から矢野ゼミの学生が行っており、矢野ゼミで制作した行燈は、総計で約 80 基にのぼり、8 月 16 日（月）～8 月 24 日（火）までの期間、祇園北地区を灯すことになった。

今年もコロナ禍で、時間短縮や休業する店も多かったが、高さ 28 センチ、幅 20 センチ、奥行き 15 センチの行燈に、学生たちが、桔梗の花、花火、舞妓などを思い思いに描いた作品は、道行くひとや地域の方の目を楽しませた。

地域の世話役の方からは、「コロナ禍だからこそ、学生さんの協力で、地域を元気にしたい。来年こそは、また、一緒に行燈を貼る作業にも参加して欲しい。」と継続を望む声をいただいている。学生にとっては、作品発表の場となるだけでなく、地域活動の実際を知ったり、京都の地域文化に触れたり、伝統的な景観保全について考えたりできる貴重な体験となっている。学生の制作した行燈については、「情緒豊か、手作りあんどん」として、2021 年 8 月 18 日付の京都新聞で紹介された。



京都ビジネス交流フェア 2022

産学連携コーナーへの出展

日時：2022 年 2 月 17 日（木）・18 日（金）10：00～17：00
場所：京都府総合見本市会館（京都パルスプラザ 第一展示場）

主催：京都府 / 公益財団法人京都産業 21

概要：‘ディープテック’推進を目的とし、関西地区の大学・高専が出展する「産学連携コーナー」が設置された。産学連携に興味を持つ企業の掘り起こしや連携創出のため、『産学連携事例展示』の他、開発商品の展示や新たな共同研究棟に向けた『研究シーズ展示』が行われた。

産学連携事例 展示コーナー参加大学 / 高専

大阪大学、京都工芸繊維大学、京都精華大学、京都先端科学大学、京都大学、京都府立医科大学、京都府立大学、近畿大学、同志社女子大学、奈良工業高等専門学校、奈良女子大学、奈良先端科学技術大学院大学、龍谷大学、京都女子大学



京都女子大学 地域連携研究センターのブースでは、リカレント教育課程と地域連携活動の実績をパネル展示で紹介すると同時に、アニュアルレポートやリカレント教育課程のリーフレットを配布して、PRにつとめた。

見本市、展示会へ参加の企業担当者が、産学連携コーナーへ立ち寄り、熱心に質問される姿が多く見られた。本学のリカレント教育課程について、ご存じない方も多かったが、特に IT や AI リテラシーといった最先端知識を習得できる学びには、興味を持たれたようだ。本年度のリカレント教育課程を紹介したリーフレットを手に取り、娘、妻に渡したいと話される方も居て、女性の学び直しの機会を継続して提供しているリカレント教育課程へ、評価をいただいた。開発商品や技術に関する出展ブースが多い中で、リカレント教育や地域連携活動に関する活動紹介であったが、参加者には、地域連携研究センターの取り組みについて PR する機会となった。また、産学連携コーナーに出店しているブース担当者とは、各々の大学の地域連携活動事例について、情報交換を行う機会を持てた。

京都女子大学が提供する「多様な学びの場」

本学では、2021年度、生涯学習機会として、「公開講座」「生涯学習講座」「リカレント教育課程」を開講した。人生100年時代がいわれる昨今、生涯にわたり、自由に学び続ける機会を提供することは、地域社会の活性化、女性の社会進出と持続可能な社会の発展に寄与するものである。コロナ禍で、思うような展開が出来ない状況下ではあったが、オンラインを利用するなど工夫を凝らして、今年度も継続して開講した。

【公開講座】

- ・定員は各教室のコロナ対策定員以内（教室隻数の1/2以内。ただし最大100名とする。）
- ・事前の申し込み制とし、当日の参加者を把握した。
- ・1講題につき60分以内とし、超える場合や複数の場合も15分程度の休憩を設定した。
- ・後期にオンラインで開催した。

【生涯学習講座】

- ・オンラインで開催した。
- ・複数回来校することによる感染リスク1を回避するため、3回連続講座を1日で完結した。
- ・1回の時間は60分とし、間に15分程度の休憩時間を設定した。

2021年度 公開講座一覧

| 講座名 | 講題 | 開催 | 講師 | 開講形態 |
|---------------------------------------|--|----------|---|-------|
| 人文学会公開講座 | 映像メディアを活用して英語の語彙・表現力を鍛える | 10/20(水) | 本学准教授 横山 仁視 | オンライン |
| | 映画でひも解く日英語の「語」の世界 —語の仕組みを知り、語彙力強化につなげる— | | 岐阜大学助教 飯田 泰弘 | |
| 国文学科公開講座 | 漢文を読むということ —申文の文体を中心に— | 10/29(金) | 大阪大学大学院 文学研究科 教授 滝川 幸司 | オンライン |
| | 平安時代の柿本人麿 | | 山形大学地域教育文化学部 地域教育文化学科 藤田 洋治 個別任期付教授 | |
| 食物栄養学科公開講座 | ビタミンB12不足とその予防方法 | 11/6(土) | 本学准教授 桂 博美 | オンライン |
| | だれでもおこりうる ビタミンB12代謝異常とその病態 | | 刈谷豊田総合病院院長 補佐 兼 腎臓内科部長 小山 勝志 | |
| 史学科公開講座 | 日本海軍における水路業務 —水路部の測量と図誌作製— | 11/19(金) | 本学准教授 小林 瑞穂 | オンライン |
| | 近世中国の皇帝政治 —北宋時代の政治過程 | | 本学准教授 藤本 猛 | |
| 生活デザイン研究所 公開講座 養源院と浅井長政 | 養源院と浅井長政 | 11/20(土) | 滋賀県文化保護審議会 委員 本学非常勤講師 宇野 日出生 | オンライン |
| | 養源院にて堂内見学 | | 養源院 吉水 行友 | |
| 栄養クリニック公開講座 健康寿命延伸のための 運動とお口の健康 | 転ばぬ先の杖・転ばぬための知恵～健康 長寿のための運動 | 12/11(土) | 本学教授(栄養クリニック 研究員) 坂手 誠治 | オンライン |
| | 歯とお口にまつわる新常識 ウソ・ホント！ ～毎日を健康に過ごすために知っておきたい3つのお話～ | | 大手前短期大学 歯科衛生学科 助教 白水 雅子 | |

2021 年度 前期 生涯学習講座一覧

| 講座名 | 各回の講題 | 開催 | 講師 | 開講形態 |
|--------------------|-------------------------|-------------|-------------------------------------|-------|
| 人と動物の関わり | ①人と動物の交流：ペット、ふれあい、野生生物 | 7/3 (土) | 本学教授 霜田 求 | オンライン |
| | ②人による動物の利用：動物実験、肉食、異種移植 | | | |
| | ③動物の福祉と権利 | | | |
| いつまでも、いくつになってもよい姿勢 | ①良い座り姿勢・立ち姿勢とは | 7/10 (土) | 本学 地域連携研究センター 客員研究員 原田 奈名子 | オンライン |
| | ②姿勢がいいと呼吸もいい | | | |
| | ③良い姿勢・良い呼吸の恩恵と方法 | | | |

2021 年度 後期 生涯学習講座一覧

| 講座名 | 各回の講題 | 開催 | 講師 | 開講形態 |
|---------------------------------|--------------------|--------------|-------------------------------------|-------|
| ちょっとしたお手入れで、よい姿勢、よい呼吸を手に入れよう | ①良い座り姿勢・立ち姿勢とは | 11/13 (土) | 本学 地域連携研究センター 客員研究員 原田 奈名子 | オンライン |
| | ②姿勢がいいと呼吸もいい | | | |
| | ③良い姿勢・良い呼吸の恩恵と方法 | | | |
| 日中古典詩歌における「霞」「梅」「蟬」 | ①日中古典詩歌における「霞」 | 12/14 (火) | 本学教授 劉 小俊 | オンライン |
| | ②日中古典詩歌における「梅」 | | | |
| | ③日中古典詩歌における「蟬」 | | | |
| 歴史を動かした源平の「妻」たち——平時子・北条政子・西八条禅尼 | ①平家一門のゴッドマザー——平時子 | 2/10 (木) | 本学宗教・文化研究所客員研究員 本学名誉教授 野口 実 | オンライン |
| | ②後妻打ちの尼將軍——北条政子 | | | |
| | ③実朝の妻のその後——西八条禅尼 | | | |
| 演奏を科学する | ①テンポから見る《魔王》の演奏史 | 2/19 (土) | 本学准教授 荒川 恵子 | オンライン |
| | ②テンポから見る交響曲の演奏史 | | | |
| | ③テンポから見るクラシック演奏の未来 | | | |

2021 年度の学びの場

| 対象世代 | 性別 | プログラム（コンテンツ） | 備考 |
|-------------------|------|---------------------------------|--------------------|
| 20 代～ | 男女 | 公開講座 | 無料 |
| 20 代～ | 男女 | 生涯学習講座 | 有料 |
| 20 代～ | 女性のみ | リカレント教育課程 キャンパス平日通学コース | 有料 |
| 20 代～ | 女性のみ | リカレント教育課程 再就職支援コース（A コース） | 無料 2021 年度に限り無料 |
| 20 代～ （働く女性対象） | 女性のみ | リカレント教育課程 ブラッシュアップコース（B コース） | 無料 2021 年度に限り無料 |
| 20 代～ （働く女性対象） | 女性のみ | リカレント教育課程 キャリアアップコース（C コース） | 無料 2021 年度に限り無料 |

「いつまでも いくつになっても よい姿勢」2021年度前期 「ちょっとしたお手入れで、よい呼吸、よい姿勢を手に入れよう」2021年度後期

地域連携研究センター客員研究員 原田 奈名子

1. 事後アンケートより

1-1 令和3年度前期

受講者8名

満足度 講座に対して 1. 満足、2. やや満足、3. どちらともいえない、4. やや不満、5. 不満 の5件法の結果、87.5%が満足、12.5%がやや満足だった。

オンライン参加者のコメントの抜粋

- ・姿勢と呼吸の重要性について改めてわかった。
- ・テレワークやスマホ使用で最近自身の姿勢の悪さと呼吸の浅さが気になっておりました。…本日学んだことを取り入れながら日頃の生活で意識し、健康に日常生活を送れるようにしたいと思いました。
- ・今日の講義を通し、自分の体の構造について学ぶことで、呼吸をするということや、良い姿勢について理解しやすくなりました。また、日々の積み重ねで良い姿勢を保つことができることを知り、少しずつ実践していこうと思いました。本日は貴重な講義をありがとうございました。
- ・…オンライン開催だったので、コロナでしばらく会えてない同窓生と一緒に受講しました。解剖学的な知識がなかったため、話についていけない部分があったが、初めて知った知識はかえってもっと詳しく知りたいと興味を持ちました。
- ・姿勢と呼吸が繋がっていることや、紐で体の動きが変わることが実感できてとても驚きました。原田先生のお話も聞き取りやすく、明るく楽しく講座をして下さったので、あっという間に終わる感覚でした。
- ・一人一人の画面を見て、「そうですね。」とか、「もう少しこうした方が良いですよ。」とアドバイスをしてくださったりと、先生の声かけのおかげで、その場で講義を受けているかの様に思え、とても楽しかったです。

1-2 令和3年度後期

受講者8名

満足度 満足が50% やや満足が50% だった。

オンライン参加者のコメントの抜粋

- ・「背骨がまっすぐ」が良い姿勢のイメージであり、そのため余分な力が入っていたため、背中や腰に張りがあるんだな、と思いました。
- ・背骨がしなやかに、ジューシーなイメージを意識するとかかなり楽な感じがしました。今後意識したいと思います。楽しかったです。ありがとうございました。
- ・今日はありがとうございました。
- ・体のこと、もっと深く学びたいと思いました。先生がユニークで聞いてて飽きなかったです。

- ・講師の熱意に時間を忘れた。
- ・内容が盛り沢山で楽しかったです
- 特筆したいこと
- ・オンラインだから満足が得られないということはない。
- ・現地まで移動しなくてもよいので大学から遠くても参加しやすい。
- ・離れて住んでいる知り合い同志と一緒に受講できる。

2. アンケートからわかった成果以外のこと

参加者の数

対面で行ったときは多くの参加を得られたが、オンラインになってから1ケタ台になった。

2020年度は既受講者対象のアドバンス講座も開くほど盛況だった。しかし、コロナが蔓延し始めた2021年前期は中止、後期はハイブリットで実施した。遠隔で受講くださったのは本学に在籍歴のある事務方おひとりであった。そして昨年度2021年度は前・後期とも遠隔のみの実施となった。遠隔になってからの受講者が劇的に少なくなった。減少について、その理由を考える。

本講座に限らず、コロナ禍、様々な団体が主催する多くの講座が遠隔になった。スマートフォンやタブレットが普及し誰もが遠隔で受講できる時代になった。ではあるが、やはり遠隔になって参加し難い方がすくなくらいと推察する。

参加者の年齢からみて、遠隔になっても参加者の年代はこれまでと大きく変わっていないといえよう。ということは、「参加し難いと感じている」のは、年齢に関係ないと推察する。

対策

本講座に限らず、「遠隔の公開講座、受講に際して」として、ズームのインストールの仕方や参加の仕方についての手厚いサポートが役に立つかもしれない。

3. タイトルについて

- 1：いつまでも いくつになっても よい姿勢（前期）
- 2：ちょっとしたお手入れで、よい呼吸、よい姿勢を手に入れよう（後期）

と前期と後期で変えて実施した。後期は「呼吸と姿勢」に絞ったタイトルであり、前期の方は講座内容が曖昧である。受講者数は変わらないが、コメント量には差があった。2022年度は、タイトルを1に戻そうと考えている。

4. 講習内容の一部

イメージの描きなおしについて

私たちは思っているイメージに則って動いている。そこで、解剖学的に正しい知識に基づいた、あらたなイメージを持つ意義をお伝えした。

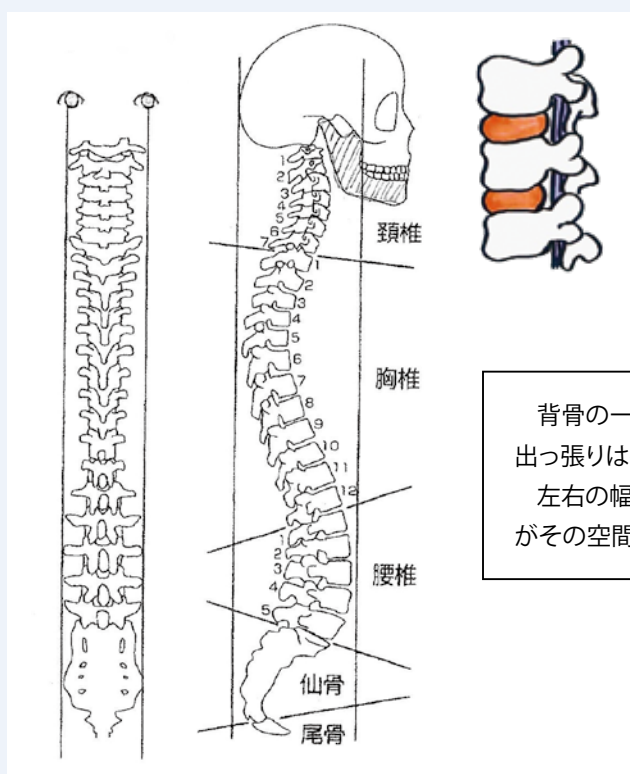
①背骨のイメージ

訪ねると、「固い」「まっすぐ」「痛い」…であった。では、そう唱えながら歩いていただき、感想を求めた。当たり前だが、「歩きにくい」「歩きたくない」等であった。

そこで骨の役割はいくつかもあるが、一つは「重さの伝達」であることを伝えた。解剖図やミニ骨格モデルを見せながら、頭の重さが背骨に伝わり、左右の寛骨へ、そして股関節から大腿骨を通して脛の2本の骨（脛骨と腓骨）へ、足首を経由して足部に伝達することを伝えた。

背骨は、確かに後ろから見ると真っすぐであり、横突起を含む幅がほぼ同じである。が、横から見ると頸椎・胸椎・腰椎が前弯、後弯、前弯とS字状に湾曲している。前後幅は、ほぼ脳が入る幅になっている。この方が1本の棒の上に脳があるより、はるかにバランスが取れる構造になっている。また移動のショックの吸収にも都合がよい。

加えて、椎間板の働きである。背骨の個々の骨を椎骨とよび、椎骨間には椎間板という組織がある。これがあるから背骨が多様な方向に動くことができ、背骨のSカーブと相まって衝撃を吸収する。



これらの知識を得ると、背骨のイメージは「ジューシー」「しなやか」へと変化した。このイメージで歩いていただいたとき、「楽になった」と感じられるようになった。

②足首のイメージ

L型からT型へ

骨格を見なければ脛から足はLの字のように思える。が、骨格を見ると外踝（腓骨）と内踝（脛骨）に挟まれてる骨（距骨）は踵の骨（踵骨）より前方に位置している。つまり脛と足がTの字を逆さにしたような位置関係にある。中心が後ろに偏っているが“やじろべえ”みたいに中心ら前後に動くのである。このイメージに則ると歩き方も変化する。



姿勢と呼吸

2分間で何回呼吸するか、数えていただいた。望ましい回数は10回以下である。

意図的に猫背や反り腰で呼吸していただき、呼吸しづらいことを実感していただいてから、背骨や肋骨の関係を動かしながら知覚できるように図った。すると、たつぷり深い呼吸ができると好ましい姿勢になり、その逆、好ましい姿勢が深い呼吸を導くことを実感いただいた。

「よい姿勢は真っすぐ」から、図の説明にあるように、「よい姿勢は生理学的に湾曲した姿勢」、「前後にも左右にもかなり大きい空間に位置する」と意識を変えるだけで呼吸数も変わる。

背骨の一番前の出っ張りは奥歯のかみ合わせよりやや前、一番後ろの出っ張りは後頭部から垂線を垂らした辺りになる。

左右の幅がほぼ黒目の幅、前後の幅が上述した幅とイメージすると背骨がその空間内で「しなやかに」ゆったりと位置しやすくなる。

背骨の骨格図：原田奈名子（2002）著「からだほぐしを楽しもう ②」汐分社より 椎間板、右足のイラストはフリー素材

リカレント教育課程

2021 年度 リカレント教育課程概要

概要

本年度のリカレント教育課程は、本学独自プログラムである「キャンパス平日通学コース」、文部科学省就職・転職支援のための大学リカレント教育推進事業として「再就職支援コース(Aコース)」「ブラッシュアップコース(Bコース)」、文部科学省女性の多様なチャレンジに寄り添う学びと社会参画支援事業として「キャリアアップコース(Cコース)」の4コースで開講した。どのコースにも国家資格キャリアコンサルタントの資格を有する専従コーディネーターを配属し、就業や学習支援を手厚く行った。また、今年度からは、2名の就業支援コーディネーターも加え、受講生の希望に応じたアドバイスや情報提供を行い、さらにきめ細やかな対応につとめた。

コース別概要

●キャンパス平日通学コース

*大学独自プログラム

キャンパス平日通学コースは、厚生労働省専門実践教育訓練給付金制度の対象講座であり、平成30年には、文部科学省「教育実践力育成プログラム(BP)」に指定された。教養科目として、学部講義の一部を学習できるのも、このコースの魅力である。

平日3～5日通学(オンライン含む)で、120時間の履修証明プログラムとして開講した。

●再就職支援コース(Aコース)

*文部科学省 就職・転職支援のための大学リカレント教育推進事業

対面+オンライン(双方向)の授業で、120時間の履修証明プログラムとして開講した。就業支援のためのイベントや職場見学、キャリアカウンセリングを実施することで、仕事へのマインドアップと広い視座を持てるようにフォローした。

●ブラッシュアップコース(Bコース)

*文部科学省 就職・転職支援のための大学リカレント教育推進事業

働く女性も学びやすいように、eラーニング主体の授業と土曜日の通学を基本に、60時間の履修証明プログラムとして開講した。ITリテラシー、AIリテラシー、RPAといったITCを学ぶほか、ビジネススキルや知識を学べる科目を設置し、幅広い層のブラッシュアップがはかれるように配慮した。事業修了後には、文部科学省のホームページで、「優良事例」として紹介していただいた。

●キャリアアップコース(Cコース)

*文部科学省女性の多様なチャレンジに寄り添う学びと社会参画支援事業

働く女性が学ぶためのコースとして、土曜日の通学を主体にeラーニング授業をプラスした60時間の履修証明プログラムとして開講した。カリキュラムでは、RPAとAIに特化したコースとしての特色を出した。ビジネス統計学、組織マネジメントなどマネジメントに必要なスキルを高める科目を加えてキャリアアップを目指すコースとした。

広報

4コースの説明は、ホームページを中心に、コースごとのリーフレットを制作し行った。

リーフレットは、連携先企業や京都ウィメンズパーク、ハローワークなどの協力を得て配布し、PRを行った。



▲コース別リーフレット

キャンパス平日通学コース開講科目

| 領域 | 区分 | 科目 |
|----------|-----------------------|----------------------|
| キャリア形成科目 | 必修 | ライフ・キャリアデザイン |
| | 選択必修 いずれか 1科目選択 | 基礎英語 |
| | | オフィス英語 |
| | | パソコン基礎 |
| | | パソコン実践 |
| | 3科目選択 | 人的資源管理 |
| | | 会社法（起業含む） |
| | | 企業会計 |
| | | マーケティング戦略とブランドマネジメント |
| | | ロジカル・ライティング |
| | | 簿記1（3級） |
| | | 簿記2（商業簿記アドバンス） |
| | | 京都とイノベーション（伝統産業） |
| | | 組織マネジメント |
| | | ツーリズム論 |
| | | コーポレートガバナンス |
| 教養科目 | 2科目選択 | 食空間プロデュース論 |
| | | 教養科目C（女性を生きる） |
| | | ファッション文化論（服飾美学） |
| | | 金融論 |
| | | 産学連携講座A1（三井住友銀行） |
| | | 産学連携講座A2（野村證券） |

再就職支援コース（Aコース）開講科目

| 領域 | 区分 | 科目 |
|----------|---------------|---------------------------------|
| キャリア形成科目 | 必修 | ライフ・キャリアデザイン |
| | | 人的資源管理 |
| | | 会社法（起業含む） |
| | | 企業会計 |
| | | マーケティング戦略とブランドマネジメント（マーケティング入門） |
| | | ロジカル・ライティング |
| | | 京都とイノベーション（伝統産業） |
| | | 組織マネジメント |
| | | ツーリズム論 |
| | | コーポレートガバナンス |
| | | パソコン基礎 |
| | | パソコン実践 |
| スキル科目 | 選択必修 （1科目） | 基礎英語 |
| | | オフィス英語 |
| | 選択必修 （1科目） | 簿記1（3級） |
| | | 簿記2（商業簿記アドバンス） |
| 応用科目 | 必修 | 職場体験・見学 |
| | | 業界セミナー |
| その他 | 選択 | MOS 資格対策講座 |

ブラッシュアップコース開講科目

| 領域 | 区分 | 科目 |
|----------|----|-----------------|
| キャリア形成科目 | 必修 | キャリア・マネジメント |
| | | AI リテラシー |
| | | IT リテラシー |
| | | RPA 講座 |
| | | 企業会計 |
| | | 組織マネジメント |
| | | 人的資源管理 |
| | | マーケティング実践 |
| 応用科目 | 必修 | 職場体験・見学 |
| | 選択 | プレゼンテーション |
| | | 実践英語 |
| その他 | 選択 | IT パスポート 資格対策講座 |
| | | MOS 資格対策講座 |

キャリアアップコース開講科目

| 領域 | 区分 | 科目 |
|----------|----|-------------|
| キャリア形成科目 | 必修 | IT リテラシー |
| | | AI リテラシー |
| | | RPA 講座 |
| | | キャリア・マネジメント |
| | | ビジネス統計学 |
| | | 人的資源管理 |
| | | 組織マネジメント |
| | | RPA 演習 |
| | | ロジカルライティング |
| スキル科目 | 選択 | ビジネスライティング |
| | | プレゼンテーション |

志願者数と定員充足率

通学を主体とするコースが、定員割れとなったのは、コロナ禍による通学への抵抗感、子育て世代では、学校の休校による子どもへの家庭での対応が必要になるなどの影響が考えられる。学びやすさを考慮した授業形態の見直しは、今後の課題といえる。

一方、eラーニングと土曜日のみの通学を主体とするコースでは、定員を上回る志願者があり、応募書類と面接による選考を実施した。（ITに特化したキャリアアップコースでは、受講に必要なPCスキルチェックも行った。）

| | キャンパス 平日通学コース | 再就職支援 コース | ブラッシュ アップコース | キャリア アップコース |
|-------|------------------|--------------|-----------------|----------------|
| 定員 | 20人 | 30人 | 30人 | 15人 |
| 志願者数 | 10人 | 17人 | 53人 | 34人 |
| 合格者数 | 8人 | 14人 | 30人 | 15人 |
| 定員充足率 | 40% | 46.7% | 100% | 100% |

*キャンパス平日通学コース、再就職支援コースでは、それぞれ2名の入学辞退者があった。ブラッシュアップコースでは、体調不良により、講座途中での辞退者が2名あった。

リカレント教育課程

実施スケジュール

コロナ禍で、対面でのイベント実施は減ったが、学外の機関と連携した就業支援やオンラインを活用したキャリアカウンセリングなどの就業支援を実施した。

●スケジュール（告知募集活動～開講式）

| 日時 | 内容 | 実施対象コース |
|-------------------------------|--------------------------|---------|
| 2021年 6月10日(木) | 池上彰氏を招いてのリカレント説明会 ※ウェビナー | 全コース共通 |
| 2021年 6月23日(水) ～8月9日(月) | 個別相談会 | 全コース共通 |
| 2021年 7月1日(木) ～8月18日(水) | 出願期間 | 全コース共通 |
| 2021年 8月26日(木) ～28日(土) | 面接選考日※3日のうち本学が指定した日時で実施 | 全コース共通 |
| 2021年 9月2日(木) | 合格発表日 | 全コース共通 |
| 2021年 9月6日(月) ～10日(金) | 入学手続き期間 | 全コース共通 |
| 2021年9月11日(土) | オリエンテーション ※対面実施 | 全コース共通 |
| 2021年9月18日(土) | 開講式(入講式)※対面実施 | 全コース共通 |

▼池上彰氏を迎えての説明会告知チラシ

京都女子大学リカレント教育課程説明会のご案内

池上彰氏が語る 女性のためのリカレント教育
(社会人の学び直し)

京都女子大学では、2016年度よりリカレント教育課程を設け、働きながら学び直しに挑戦し、キャリアアップ、キャリアチェンジを目指す女性の一歩を応援しています。

この度、池上彰氏とともに、コロナ禍におけるVCTを適用した女性のための社会人の学び直しについて説明する機会を設けました。(新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、ライブ配信で行います。)

※ライブ配信

2021年6月10日(木) 13時～14時30分
※ライブ配信のため観覧は多少前後いたしますがご了承ください。

第1部
女性のためのリカレント教育(学び直し)について
池上彰氏
▶13時～13時30分

第2部
京都女子大学リカレント教育課程の説明
京都女子大学副学長 地域連携研究センター長
中山 玲子
▶13時30分～14時

第3部
パネルディスカッション
池上彰氏×京都女子大学学長 竹安 子
×リカレント教育課程修了生
テーマ：リカレント教育の魅力
▶14時～14時30分

お申し込み方法
申込期限：5月28日(金) 15時
下記URLまたはQRコードから申し込みフォームにアクセスいただき、お申し込みください。
申し込み多数の場合は抽選となる抽選のうえ400名様にライブ配信が視聴できる1回、及びパースードをお知らせいたします。(お知らせ期間 6月2日～6月4日の予定)
http://rcpp.kyoto-wu.ac.jp/rcpp/recursive/wp/?page_id=140

※お問い合わせ先
〒605-8501
京都府京都市中京区今熊野北目町 35
京都女子大学 地域連携研究センター
TEL: 075-251-9057
Mail: nenkigkyoto-wu.ac.jp
<http://rcpp.kyoto-wu.ac.jp/rcpp/recursive/>

※説明会は、ネット参観システムを利用します。説明会に参加するには、パソコンまたはスマートフォンに接続できる環境が必要となります。
※説明会への参加は無料となります。インターネット接続に関する料金は参加者の負担となりますので、ご了承ください。



▲ RPA 講座 大阪本町で実施



▲実践英語 対面とオンラインのハイブリッドで実施



▲講師との交流会

●スケジュール（講座開講～修了式）

| 日時 | 内容 | 実施対象コース |
|--|---|-----------|
| 2021年 10月1日(金) | 授業開始 ※平日通学コースは9月より大学共通科目開始 | 全コース共通 |
| 2021年 10月28日(木) ～11月1日(月) | 第一回キャリアカウンセリング ※対面実施 | Aコース |
| 2021年 11月13日(土) ～11月26日(金) | 第一回キャリアカウンセリング※Zoom | Bコース |
| 2021年 11月27日(土) | リカレントカフェ 受講生とコーディネーターが、グループ討議する懇談会を開催。※対面実施 | Bコース、Cコース |
| 2021年 12月1日(水)・ 6日(月)・8日(水)・13日(月) | 業界セミナー(オムロンエキスパートリンク)テーマ：これからの時代の多様な生き方/いまさら聞けない就職活動のしかた/最近の技術動向とモノづくりメーカーでの仕事について/労働市場を知る/大学で働く※Zoom | Aコース |
| 2021年 12月13日(月) ～12月23日(木) | 第二回キャリアカウンセリング※Zoom | Bコース |

| 日時 | 内容 | 実施対象コース |
|-------------------------------------|---|--|
| 2022 年 1 月 12 日 (水)・ 14 日 (金) | 第二回目キャリアカウンセリング※ Zoom | A コース |
| 2022 年 1 月 12 日 (水) | キャリアセミナー わかもの就職支援センター テーマ：自己分析※ Zoom | A コースのみ 必修、平日コースは希望者が受講 |
| 2022 年 1 月 14 日 (金) | キャリアセミナー 久保氏講演 テーマ：会社が必要とする人材 ※ Zoom | A コースのみ 必修、平日通学コースは希望者が受講 |
| 2022 年 1 月 15 日 (土) | 企業との懇親会 テーマ：NTT 西日本「IT 業界の採用動向と求められる人材について」 ※ Zoom | B コースはリアルタイム参加 他 コース は、エルステップ公開の録画を視聴 |
| 2022 年 1 月 17 日 (月) | キャリアセミナー テーマ：曼荼羅で就職を考える ※ Zoom | A コースのみ 必修、平日通学コースは希望者が受講 |
| 2022 年 1 月 19 日 (水) | キャリアセミナー コーディネーターリレー講義 テーマ：いろいろな就労について ※ Zoom | A コースのみ 必修、他コースは希望者がリアルタイム受講、エルステップでも後日録画を全コースに公開 |
| 2022 年 1 月 22 日 (土) | キャリアセミナー 在学生主催イベント テーマ：在学生・リカレント生・卒業生との交流 ※ Zoom | A コースのみ 必修、平日コースは希望者のみ参加 |
| 2022 年 1 月 22 日 (土) | リカレント修了生の IT パスポート資格合格体験談 ※エルステップで録画を公開。 | 全コース共通 |
| 2022 年 1 月 24 日 (月) | キャリアセミナー 中小企業同友会と交流会 【参加企業 (敬称略)】 田中敏雄 / ONE DROP / 有限会社遠山 / 株式会社ゆめ工房 / 大原社会保険労務士法人 / 芽生えコンストラクション株式会社 / ※ Zoom | A コースのみ 必修、他コースは希望者のみ受講 ※このイベントをきっかけに 1 名就業決定 |
| 2022 年 1 月 25 日 (火) | キャリアセミナー わかもの就職支援センター テーマ：企業研究 【参加企業 (敬称略)】 有限会社鈴木モータース / 日本収益不動産株式会社 / ゲートジャパン株式会社 ※ Zoom | A コースのみ 必修、他コースは希望者のみ受講 ※このイベントをきっかけに 1 名就業決定 (他:内定 1 名) |

| | | |
|--|---|--|
| 2022 年 1 月 26 日 (水) | キャリアセミナー 講師交流会 ※対面 | 平日通学コース・A コース |
| 2022 年 1 月 27 日 (木) | キャリアセミナー リカレント修了生との交流会 (第 3 期生 6 名参加) ※ Zoom | 平日通学コース、A コース |
| 2022 年 2 月 5 日 (土) | 修了生との交流会 ※ Zoom | 平日コース・A コース |
| 2022 年 2 月 7 日 (月) | キャリアセミナー PPT 指導 ※対面 | 平日コース・A コース |
| 2022 年 2 月 7 日 (月) | キャリアセミナー テーマ：話し方講座 講師：第 3 期修了生廣瀬氏 ※ Zoom | 平日通学コース・A コース |
| 2022 年 2 月 7 日 (月) ~2 月 17 日 (木) | 第三回目キャリアカウンセリング ※ Zoom | A コース・B コース ※ A コースは 2 月 7 日・8 日の 2 日間 |
| 2022 年 2 月 8 日 (火) | キャリアセミナー 成果報告会リハーサル ※ Zoom | 平日コース・A コース |
| 2022 年 2 月 9 日 (水) | 成果報告会 ※ Zoom | 平日通学コース、A コース |
| 2022 年 2 月 10 日 (木) | キャリアセミナー 成果報告会振り返り会 ※ Zoom | 平日通学コース、A コース |
| 2022 年 2 月 12 日 (土) | 成果報告会 ※ Zoom | B コース |
| 2022 年 2 月 14 日 (月) | 修了式 ※ Zoom | A コース |
| 2022 年 2 月 19 日 (土) | 成果報告会 ※ Zoom | C コース |
| 2022 年 2 月 26 日 (土) | 修了式 ※ Zoom | 平日通学コース、B コース、C コース |



▲キャリアマネジメント 講義

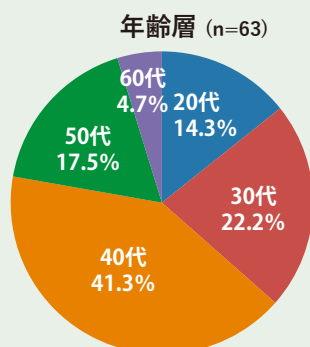
リカレント教育課程

2021 年度データ

合格者の属性

●年齢（4コース合計）

40代を中心に、20代～60代まで幅広い年代が受講。

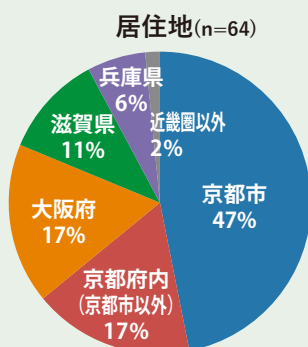


・コース別 平均年齢

| 平日通学コース | 再就職支援コース | ブラッシュアップコース | キャリアアップコース |
|---------|----------|-------------|------------|
| 37.4 歳 | 42.8 歳 | 42.9 歳 | 43.1 歳 |

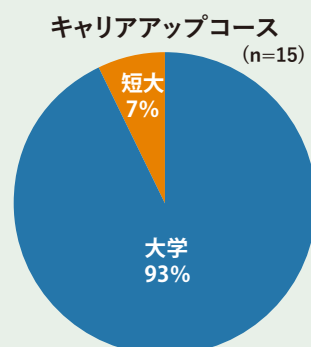
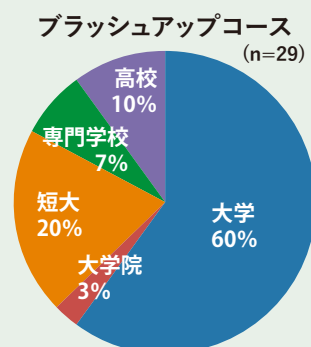
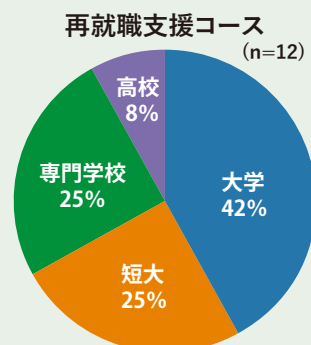
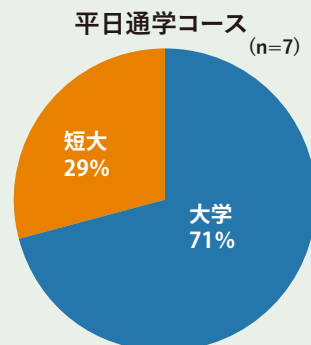
●居住地

京都市以外からも、半数以上が通学。



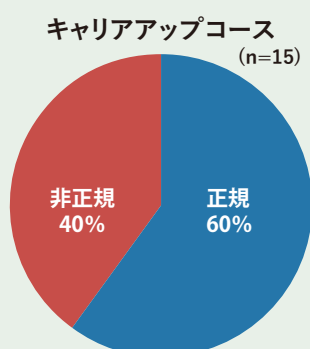
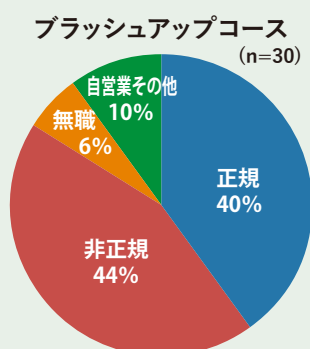
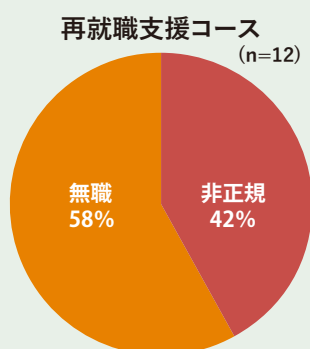
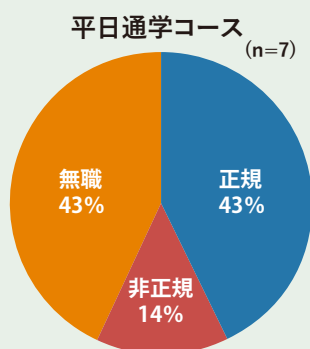
●最終学歴

4年制大学卒業の割合が4コースともに最も高い。



●受講前の就業形態

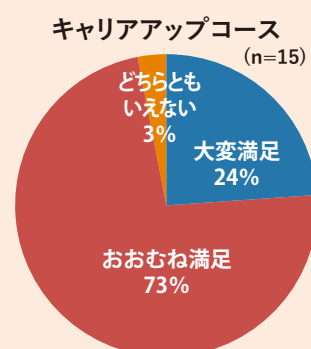
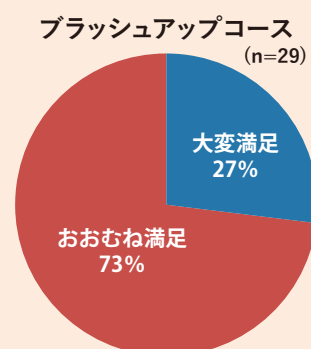
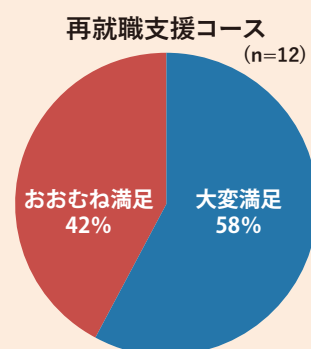
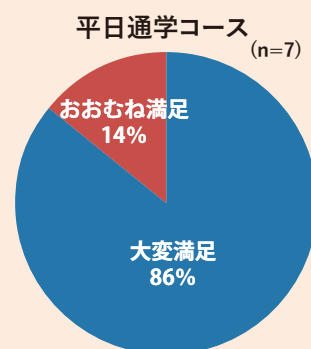
コースごとに、授業形態や学ぶ目的が違っているため、受講前の就業形態にも相違がみられた。Bコース、Cコースでは、修了後の就業率は100%となった。



プログラムへの評価

●プログラム全体への満足度

プログラム全体へは、ほぼ100%の高い満足度を得ることができた。

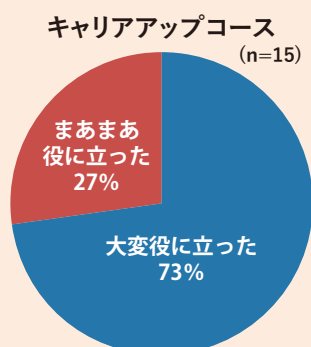
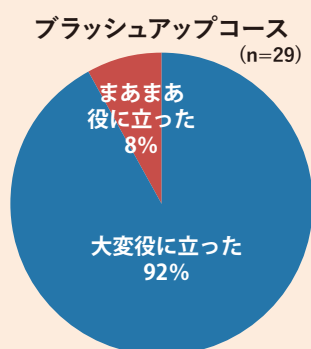
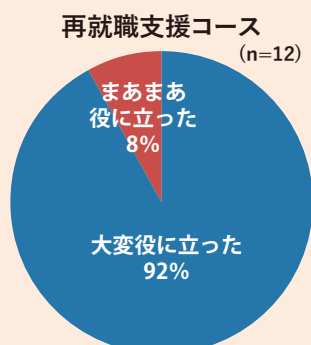
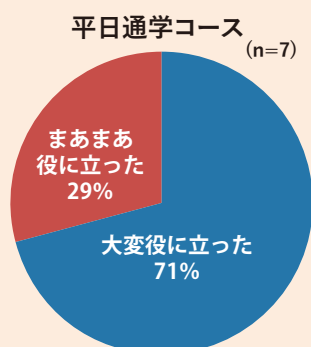


リカレント教育課程

●キャリアへの有用性

(講座は自身のキャリアを考えるのに役立ったか)

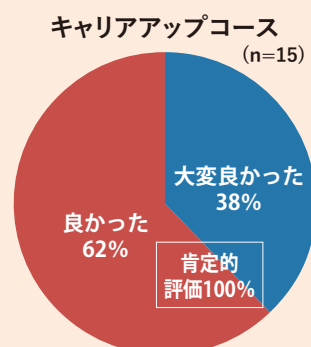
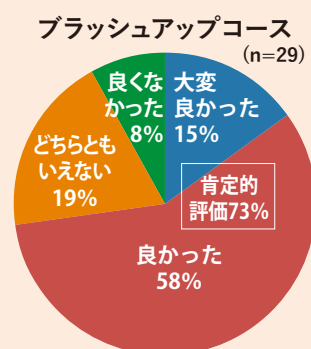
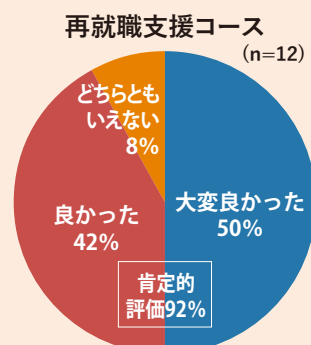
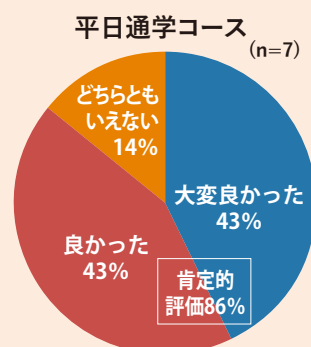
キャリアへの有用性では、全てのコースで、たいへん役立った、まあ役立ったと有用性を認める意見が100%を占めた。



●キャリア支援への評価

(セミナー、キャリアカウンセリング) 評価

ブラッシュアップコースでは、転職支援を目的としたイベントやカウンセリングへのニーズを感じない層がいた。様々なキャリアを持つ受講生が学ぶ本学リカレントでは、就業支援へのニーズも多様であった。



資格取得 / 文部科学省事業の運営体制

資格取得（2022 年度 3 月 31 日現在）

●キャンパス平日通学コース

◆簿記 3 級 受講者:2 名 * 3 月 31 日時点での受験者なし。

- ・課題に追われていたこと就活に専念していたため受験できなかったと考えられる。
- ・事務経験が豊富で、簿記の基礎知識を確認することが学習の目的だった受講生もいたと思われる。

◆簿記 2 級 受講者:1 名 合格者:1 名

●再就職支援コース (A コース)

◆ MOS Word・Excel 試験対策講座受講者:11 名

(うち 1 名バージョン違いで資格取得済み)

- ・Word・Excel 合格者:8 名

◆簿記 3 級受講者 11 名

- ・合格者:5 名
- ・CBT 方式受験予定者 1 名
- ・就活に専念するため受験断念者 2 名

◆簿記 2 級受講生 2 名

- ・3 級取得から数年経過していたため、勘が戻らず受験断念:1 名
- ・就活専念の為受験断念:1 名

●ブラッシュアップコース (B コース)

◆ IT パスポート資格対策講座 登録者:24 名

- ・合格者:4 名
- ・6 か月以内に受験予定:6 名
- ・時期は未定だが受験予定:5 名
- ・登録したが、受講していない:9 名
- ・転職活動や課題に追われていたために、3 月以降に受験を先にのばした受講生がみられた。
- ・取り敢えず登録したが、仕事や学習課題に追われて受講を断念した受講生がみられた。

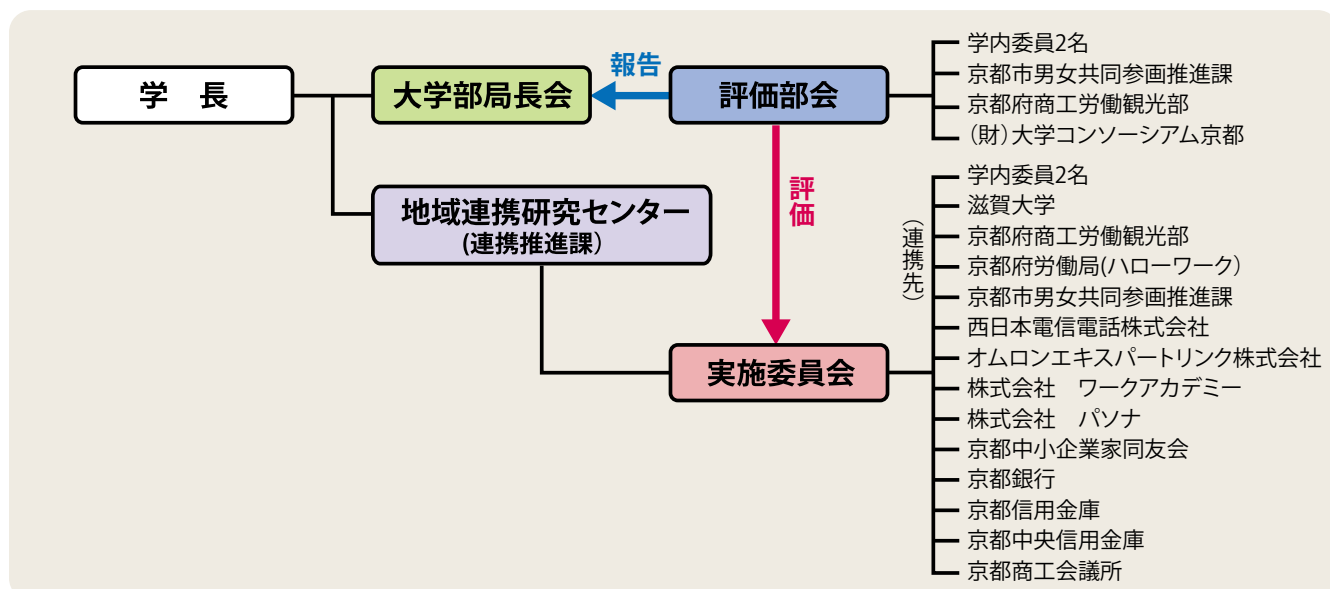
◆ MOS Word・Excel 試験対策講座登録者:19 名

- ・合格者:1 名
- ・6 か月以内に受験予定:4 名
- ・時期は未定だが受験予定:5 名
- ・登録したが、受講していない:9 名
- ・オンデマンドの公開が 1 月と遅かったため、受験までに試験対策が間に合わない受講生が多く見られた。
- ・取り敢えず登録したが、仕事や学習課題に追われて受講を断念した受講生がみられた。
- ・資格取得が目的ではなく、復習のための学習を目的とする受講生がみられた。

文部科学省事業の運営

文部科学省事業である再就職支援コース (A コース)、ブラッシュアップコース (B コース)、キャリアアップコース (C コース) の運営においては、本学内と連携先による評価部会を組織してプログラムの評価を行った。

実施体制図



リカレント教育課程

評価部会による事業評価

学内委員と、京都市、京都府、大学コンソーシアム京都の委員で構成する評価部会での評価結果では、全ての目標を達成しているとする高い評価を受けた。

●再就職支援コース（A コース）

評価結果一覧 / 4 尺度評価

| | | ①カリキュラム全体の有用性 4：大変役に立つと考えられる 3：役に立つと考えられる 2：どちらともいえない 1：役に立たない | ②就業支援の有用性 4：大変役に立つと考えられる 3：役に立つと考えられる 2：どちらともいえない 1：役に立たない | ③目的を達成しているか 4：十分に達成できていると考える 3：達成できていると考える 2：どちらともいえない 1：達成していない |
|---|-------|--|--|--|
| 1 | 学外委員1 | 3 | 4 | 4 |
| 2 | 学外委員2 | 4 | 4 | 3 |
| 3 | 学外委員3 | 4 | 4 | 3 |
| 4 | 学内委員1 | 4 | 4 | 4 |
| 5 | 学内委員2 | 4 | 4 | 3 |
| | 平均値 | 3.8 | 4 | 3.4 |

●ブラッシュアップコース（B コース）

評価結果一覧 / 4 尺度評価

| | | ①カリキュラム全体の有用性 4：大変役に立つと考えられる 3：役に立つと考えられる 2：どちらともいえない 1：役に立たない | ②就業支援の有用性 4：大変役に立つと考えられる 3：役に立つと考えられる 2：どちらともいえない 1：役に立たない | ③目的を達成しているか 4：十分に達成できていると考える 3：達成できていると考える 2：どちらともいえない 1：達成していない |
|---|-------|--|--|--|
| 1 | 学外委員1 | 4 | 4 | 4 |
| 2 | 学外委員2 | 4 | 4 | 4 |
| 3 | 学外委員3 | 3 | 3 | 3 |
| 4 | 学内委員1 | 4 | 3 | 3 |
| 5 | 学内委員2 | 3 | 3 | 3 |
| | 平均値 | 3.5 | 3.25 | 3.25 |

●キャリアアップコース（C コース）

評価結果一覧 / 4 尺度評価

| | | ①カリキュラム全体の有用性 4：大変役に立つと考えられる 3：役に立つと考えられる 2：どちらともいえない 1：役に立たない | ②就業支援の有用性 4：大変役に立つと考えられる 3：役に立つと考えられる 2：どちらともいえない 1：役に立たない | ③目的を達成しているか 4：十分に達成できていると考える 3：達成できていると考える 2：どちらともいえない 1：達成していない |
|---|-------|--|--|--|
| 1 | 学外委員1 | 4 | 4 | 4 |
| 2 | 学外委員2 | 4 | 4 | 4 |
| 3 | 学外委員3 | 4 | 4 | 4 |
| 4 | 学内委員1 | 4 | 4 | 3 |
| 5 | 学内委員2 | 4 | 4 | 3 |
| | 平均値 | 4 | 4 | 3.6 |

コーディネーターのコメント

■リカレント教育考察／働き学び続ける意欲

コーディネーター 久保 雅子

私は前職で経営の立場から従業員の人材開発に長らく関わってきた。社会経済の変化とともにキャリアの主導が個人に移りはじめ、組織内部の OJT、Off-JT だけでなく、兼業・副業制度を設け、組織の外に成長の機会を認める会社が増えてきている。本学のリカレント教育はまさにこの流れを捉えたものである。その変化の中、私は今回初めてこの大学でリカレント教育に携わる機会を得、そこで多くの受講生たちの成長をつぶさに見ることができた。

受講生は会社に属している方、フリーランスの方、ライフイベント等の理由でブランク中の方、40代を中心に20代～50代と年齢幅もあり、女性という共通項以外は、キャリアも多様性に富んでいる。失礼ながら当初は予想していなかった。いったい何が彼女たちを奮い立たせ、課題にチャレンジさせ、堂々と意見をいわしめているのか。

6か月という期間でまずは「自分自身を知る」キャリアマネジメントや、ITリテラシー、マーケティングなど学習ベースを構築し、そこに多様な選択科目を打ち立てる。コロナ禍ゆえ、画面越しでの発言や学習が中心にはなったが、各クラス担任やキャリアカウンセラーのサポートもあり、受講生は孤立することなく最終日の成果発表会でプレゼンテーションを立派に行った。成果をみなで称え、修了後は自分たちで交流の場を構築し、さらに働きながら学びを続けるとのこと。これには本当に驚き感動した。

当初、受講生話を聞くと、最初は家族の反対にあったとか、子供のことや仕事との両立ができるか不安に思ったそうだ。でもチャレンジして本当によかったと彼女たちは胸を張っている。それは人生のオーナーシップであるのが自分だと自覚したから。今それをやらなかったことや、できなかったことを後々誰かに責任転嫁したり、他人と自分との状況比較をしてうらやんだりすることに全く意味がないと知ったからだ。

「私という基盤」をしっかりもち、自分で自分のキャリアをデザインし、組織に属する、属さない関係なく、人生100年を軽やかに、それでいて意義あるものにするために彼女たちはがんばるだろう。実は私自身そんな彼女たちに勇気づけられたひとりである。

これからも世の中は、現時点では想定できないようなことが起こり続けるであろう。それでも彼女たちは歩みをとめることなくゆっくりと、時にアクセル踏みながらも、自分で創り出す軌道を進んでいってくれることを期待したい。

■歩みを止めないで

コーディネーター 大谷 学

成果報告会には、圧倒された。一人ひとりが、自分の言葉で、リカレントでの学びや気づきを語る姿は頼もしく、この教育課程に参加できた喜びを実感した。

僕は、1983年の採用（すぐ下の世代が、均等法第一世代）で、多くの優秀でやる気もある女性たちが、大変な苦勞をしてきたのを見てきた。行政で長く男女共同参画推進の仕事に携わり、「女性活躍」はライフワークである。

均等法施行から35年を超え、2013年成長戦略に「女性活躍」が位置づけられ、2015年には女性活躍推進法成立と、制度や枠組みは整ってきたが、実際には多くの壁が残っている。

働く女性は増えたが、非正規の割合は高く、管理職の割合もまだまだ低い。コロナ禍は「女性不況」と言われるように、その構造的な課題を顕在化させた。

この教育課程に参加して、意識・習慣の壁は、まだまだ残っていることを改めて実感した。

21世紀職業財団の「子どものいるミレニアル世代夫婦のキャリア意識に関する調査研究」において、「いずれの年齢階層においても、女性で「一皮むける経験をしたことがない」の割合が高い」という研究があるが、リカレント生の声は、同じことを指摘していた。男性と比べて、圧倒的に成功体験、困難を乗り越える経験値やネットワークが不足している。これを補う力が、リカレントである。成果報告会の発言を聞き、リカレント教育が経験値やネットワークの不足を補う力になると確信した。

これから必要なことは、継続。リカレント生にエールを送ります。

「2021年度のリカレント生の皆さん、教育課程、修了おめでとうございます。

成果報告会で竹安学長から、皆さんは「仕事・家庭・大学」の3足のわらじをこなしての修了とのお話がありました。皆さんは、マルチタスクをこなしながら、修了に到達したのです。このマルチタスクをこなす力は、武器になります。ここで得た学びの姿勢を忘れないでください、ここで得た仲間とのネットワークを大切にしてください。

人生100年時代、60歳はゴールではありません。

このリカレントで得られた「歩み」を止めないで頑張ってください。応援しています。」

リカレント教育課程

■大学リカレント教育の強み

平日通学コース コーディネーター 岡崎 昌枝

リカレント教育課程は高い評価を得ている。高い評価の要因は一言でいうと「寄り添った支援」である。

まず、個別相談会を開催している点である。リカレントの概要や受講科目・日程などカリキュラムを知るための機会としてホームページや説明会、チラシの配布などを行った。その後、相談会を6月～8月の長期間開催している。これにより、自分にあったカリキュラム選択することができ、途中リタイアする受講生が少ないのもマッチングの効果であったと考える。

つぎにプログラムの魅力がある。平日コースは有料ではあるが専門訓練給付金制度が利用可能である。またblankを解消するための幅広いカリキュラムとした。他のコースは文科省もしくは厚労省の委託事業による無償のコースとなっており、キャリアアップを目指すためにそれぞれに特化したカリキュラム構成とした。全コースとも対面に加えオンデマンド、Zoomなどを使つての授業を開講した。これにより受講生はITスキルの向上につながったと感じている。

加えて受講中のキャリアカウンセリングを開催した。カウンセリングは単に就職相談に限らず、就職に関する全般の支援、例えば就労先の探し方、就労に向けて本人と取り巻く環境などの相談、履歴書・職務経歴書の書き方、面接練習など本人にあったカウンセリングを実施することで就職活動が進められると同時に修了から就職へとスムーズに移行することもできた。終了後もコーディネーターが引き続き継続し連携した支援を実施した。

最後にイベントによる交流の機会を設けた。リカレント生同士、学部生、リカレント生修了生との交流に加え、中小企業家同友会、わかもの支援、講師との交流会などを企画し交流を行った。受講生は一定のコミュニティで長く関わっている一方で、違う分野、環境の異なる人との交流の機会が少ない。この交流を通してモチベーションのアップとなったようだ。

子育て中の女性の強い味方として東山区保育園との連携による一時保育の利用も可能である。講座を通して多くの団体や機関との連携、大学内の連携など地域連携研究センターが中心となってリカレント受講生の重層的な支援を行えたと思う。これこそが、京都女子大学リカレント教育課程の強みであり高い評価につながっていると考えられる。受講生が満足できる講座の継続のために今後も「寄り添った支援」に努めていきたい。

■2021年度 再就職支援コースを終えて

再就職支援コース コーディネーター 湯川 安津美

今年度12名の受講生が本課程を修了した。

就業状況

1社以上の内定獲得者：7名

すでに就業した者：2名・4/1～就業開始4名

他社結果待ち：1名

以上

新型コロナウイルスが蔓延する中、対面とZoomでの講座運営となったことから、通学機会が減り、当初は受講生となかなかコミュニケーションが取れず戸惑いを感じたが、個別でキャリアカウンセリング以外の面談を試みたことから、距離が縮まり関係性が好転した。

受講生の年代層は20代から50代と非常に幅広くはあったが、自身の得意分野で受講生同士が助け合いながらコース全体で課題に取り組み、誰一人リタイアすることなく本課程を乗り切ることができたことは、リカレント教育の真髓だと感じた。

就業意欲については、全3回のキャリアカウンセリングの報告を通して、プログラム開始直後は家庭と課題の両立で疲労困憊し今すぐ働くことに不安を覚え、消極的な発言が目立ったが。プログラム終盤になると、ハードなプログラムを乗り切った自信がつき希望に対して行動することができるようになった。

中には苦戦している人もいるが、できる限りバックアップしていこうと考える。

今回コーディネーターとして携わらせていただき、当初「私なんか」や「自信がない」など心にある種のブレーキを自らに課している傾向が強く表れていたが、プログラム終盤は皆イキイキとし、学びなおし＝リカレント教育の重要性を実感した。

年を重ねるごとに褒められることが少なくなるのも事実であり、特にライフ・キャリアデザインでは互いをほめる機会が多かったこともあり、自己効力感を付けるきっかけになったようだ。

ただ、この自己効力感もリカレント受講中は維持できるが、終了後の維持はご家族、特に配偶者の協力が必須となる。この課題は本コース最大の課題と言える。

コロナの変異株が猛威を振るっていたため修了式が残念ながらオンラインとなり心残りとなった面もあるが、受講生全員が希望の進路につけることを願う。

■個性にみがきをかけて次のステージへ

ブラッシュアップコース コーディネーター 家 績子

ブラッシュアップコースは、文部科学省の就職・転職支援のための大学リカレント教育推進事業の一環として、オンデマンドの講座を主体に、土曜日の通学を取り入れて、働きながら学べるコースとして開講した。

1コース30名の定員設定は、1コースとしては今までに最も多く、多様なキャリア、リテラシー、そして個性を持った受講生が、それぞれの「ブラッシュアップ」を目指したことが、このコースでの大きな特徴といえよう。年齢層も20代～60代までと幅広く、リカレントの志望動機も実に多岐にわたっていた。例えば、20代の方が、IT資格の取得やAI知識を身につけ、社内でのキャリアアップを目標とした「ブラッシュアップ」、30代、40代の結婚後、退職した方や、非正規で働く方が、ビジネス知識やパソコンスキルをみがき、再就職や転職をめざしての「ブラッシュアップ」、50代、60代の長くキャリアを持つ方が、人生100年時代、定年後のキャリアを見つめ直すための「ブラッシュアップ」など、目指す目標は多岐にわたっていた。このように学ぶ目的が様々な受講生たちが、1コースで学習し、満足を得ることができるだろうと、当初、かなり不安を持ったが、それは杞憂に終わった。キャリアカウンセリングや個別の学習相談を繰り返し、それぞれが、目標を見失わずに学んだ結果、最終アンケートでは、約97%がリカレントに満足したと回答した。本プログラムは、必修科目だけでも86時間あり、学習時間に負担を感じる受講生もいたが、キャリア形成、ビジネス知識、ビジネススキル、資格取得など開講科目が充実していたことで、多様な受講生への対応を可能にできたともいえる。

2021年度もコロナ感染拡大の影響を受け、最後の修了式もオンラインに変更され、対面機会が大きく減ったのは残念だった。しかし、オンラインを利用した就業イベントやキャリアカウンセリングを通じ、開講時は90%だった就業率が修了時には100%という成果を得ることができた。

年代も違う多様なキャリアを持つ仲間と出会い、高め合う関係を継続していきたい気持ちが、受講生たちに芽生え、修了後、SNSのグループとメーリングリストが早々に作られた。また、ブラッシュアップコースでは、3月末に、第一回目の交流会が、受講生の自主企画で、早くも開催され、働く女性同士のネットワークづくりは、これから、楽しみである。新たな学びや新たなキャリアをこれからスタートさせたいと、皆、更に前を向いて進み始めている。リカレントでの学びが、キャリアを築く礎となることを願っている。

■学びがさらなる自信に

キャリアアップコース コーディネーター 川畑 由見子

キャリアアップコースは、女性の多様なチャレンジに寄り添う学びと社会参画支援事業として、土曜日の通学とe-learningを組み合わせて実施された。

15名の受講者の年齢層は20代～60代までと幅広いが、メインの層は40代半ばで全員が就業中。専門性をさらに磨きたい、管理職として活躍したい、という想いを持った方たちであった。

■リカレントを受講の効果

もともと仕事でのやりたいことややるべきことが明確で、現在の仕事に自信と誇りをもって取り組んでいる方がほとんどであった。このリカレント履修期間はそんな彼女たちにとって、自身のキャリアをさらに豊かに積み上げていくために、経験を振り返りエネルギーを補充する大事な節目になった。

各教科での学びを、いかに仕事で活用するか、現場で応用するにはどうすればいいかを考えながら授業に臨まれ、このプログラムが机上の学習ではなく生きた知識として彼女たちの中に蓄積し有効に活用されたと感じた。

■カウンセリング

カウンセリングは、これまでのキャリアを棚卸して客観的に経歴を見つめなおす時間として活用された。社内での職位や現在の立場ならではの課題にどう向き合うかを話す面談の時間となった。

今の仕事に軸足を置きながらも外部市場での自身の可能性を確認するために、職務経歴書を作成したり就業機会を探索したりする方もあった。

■ネットワーク作り

履修生同士のつながりも、SNSを活用しながら自律的に強まった。授業での不明点などをお互いに答えあうだけでなく、「ここがわかりにくいのではないですか」と、誰かが戸惑いそうなことを先回りして情報を提供するなど、リーダーシップも発揮されていた。

それでも、感染予防対策の影響もありお互いが対面で知り合うという機会は作りにくく、もっと早い時期にこちらから働きかけて、授業とは別の自己紹介などの機会を設定しても良かったと反省している。

履修修了後も、ともに高め合うことができるこの仲間との関係を大事に保ち続けてほしい。

■最後に

他者からの指示を待たずに自ら常に前へ前へと進んで行く向上心と仲間を受け入れ合うおおらかさを備えた彼女たちが、リカレントプログラムで身に付けた新しい知識を社会で活用して、それぞれの職場でより際立つ存在となり、後にくる女性たちや後輩たちの範となっていけることを期待する。

2021年度 主な活動実績

2021 年

- 5.27 京都弁護士会と連携協定締結
- 7.29 第1回 文科省リカレント会議 (Zoom)
- 6.5 大学コンソーシアム京都 大学リカレント教育リレー講義に参加
- 6.10 2021年度 リカレント教育課程説明会「女性のためのリカレント教育」(オンライン) 開催
- 7.1 日新電機株式会社と連携協定締結
- 7.8 株式会社半兵衛麩と連携協定締結
- 7.24 女性のためのリカレント教育推進協議会主催シンポジウムに修了生が登壇
- 7.31 リカレント説明会(滋賀大学彦根サテライトキャンパス)
- 8.16～24 祇園北地区 4町内 地藏盆行燈絵 掲出
- 8.18 株式会社 SCREEN ホールディングスと連携協定締結
- 8.27～30 リカレント教育課程全コース面接・選考日
- 9.9 第2回 文科省リカレント会議 (Zoom)
- 9.10 <京都府鉄道警察との連携>電車/駅構内での性暴力防止(記者会見)
- 9.11 リカレント教育課程 オリエンテーション
- 9.18 リカレント教育課程 入校式
- 10.1 2021年度 リカレント教育課程 4コースが開講
- 10.1 社会福祉法人 京都府社会福祉事業団と連携協定締結
- 10.7 第3回 文科省リカレント会議 (Zoom)
- 10.12 大阪労働局イベントセミナーにコーディネーター岡崎が登壇
- 10.26 京都府リカレント教育推進大学等連携会議 (Zoom)
- 11.1 朝日放送がリカレントをテレビ取材(番組「キャスト」)
- 11.1 文科省有識者会議に地域連携研究センター長中山と主任小椋が参加 (Zoom)
- 11.2 矢野経済研究所が本学リカレントについてインタビュー取材
- 11.4 第4回 文科省リカレント会議 (Zoom)
- 11.6 文科省視察・意見交換会
- 11.8 相模女子大学が本学リカレントについて視察
- 11.24 日本赤十字社京都府支部と連携協定締結
- 11.25 読売新聞大手小町 web に本学リカレントが掲載
- 11.29 鹿児島国際大学が本学リカレントについて視察

- 12.2 第5回 文科省リカレント会議 (Zoom)
- 12.3 祇園新橋地区地域行事(火焚き祭)に学生・職員が参加
- 12.9 リカレント事業評価部会
- 12.11 らしつよ PJ 講演会開催協力
- 12.12 <阪急電鉄との連携>電車/駅構内での性暴力防止(記者会見)
- 12.18 女性のためのリカレント教育推進協議会シンポジウムにコーディネーター久保が登壇

2022 年

- 1.22 大学コンソーシアム京都 大学リカレント教育リレー講義にコーディネーター岡崎が登壇
- 1.22 女性のためのリカレント教育推進協議会主催フォーラムに主任小椋が登壇
- 1.22 らしつよ PJ イベント協力
- 2.9 らしつよ PJ イベント開催協力
- 2.9 リカレント教育課程成果報告会(平日通学コース・再就職支援コース) (Zoom)
- 2.12 リカレント教育課程成果報告会(ブラッシュアップコース) (Zoom)
- 2.14 リカレント教育課程 Aコース修了式 (Zoom)
- 2.17 第2回 リカレント評価部会 (Zoom)
- 2.17・18 京都ビジネス交流フェア 2022 に出展
- 2.17～3.31 連携プロジェクト 活動報告ポスターを図書館交流の床2階スペースに掲出
- 2.19 リカレント教育課程成果報告会(キャリアアップコース) (Zoom)
- 2.21 第6回京女ラウンドテーブル (Zoom) 開催
- 2.21 らしつよ・連携 PJ 合同発表 (Zoom)
- 2.24 第6回 文科省リカレント会議 (Zoom)
- 2.26 リカレント教育課程 平日通学コース、Bコース、Cコース修了式 (Zoom)
- 2.28 京都知恵産業創造の森 スタートアップ会議
- 3.3 第2回 文科省有識者会議
- 3.15 京都府生涯クリエイティブセンター会議
- 3.28 京都市と連携協定締結
- 3.28 オムロンヘルスケア株式会社と連携協定締結

協定締結先と連携協定内容一覧

(協定締結日順)

| 協定締結先 | 協定締結日 | 連携協定書内容 |
|-----------------------|------------|--|
| 京都信用金庫 | 2004/10/18 | 産学連携活動 |
| 東山区役所 | 2008/2/26 | まちづくりの推進に関すること、教育、健康、スポーツ、地域伝統文化の継承と振興、地域産業の振興 |
| 近畿中国森林管理局 | 2008/9/16 | 「遊々の森」における体験活動 |
| 京都大学 | 2010/6/1 | 特別研究学生交流 |
| 東山区社会福祉協議会 | 2010/10/4 | 地域福祉活動、地域福祉推進 |
| 京都市中央卸売市場第一市場 | 2013/11/5 | 健康増進・食育にかかる情報発信、市場活性化・市場流通品の促進、地域活性化 |
| 京都府警察本部 | 2014/11/7 | 交通安全の課題と対策、交通安全活動、道路交通環境の改善、通学路の交通安全 |
| 阪急電鉄株式会社 | 2015/3/26 | 教育、人材の育成、健康、スポーツ、地域伝統文化の継承、地域産業の振興 |
| 鳥取県、公益財団法人ふるさと鳥取県定住機構 | 2015/6/29 | 就職支援、産学官連携、世代間交流、生涯学習 |
| 招徳酒造株式会社 | 2015/9/18 | 地域産業・文化の伝承及び情報発信、地域活性化 |
| 齊藤酒造株式会社 | 2015/9/18 | 地域産業・文化の伝承及び情報発信、地域活性化 |
| 株式会社 朝日新聞社 | 2016/1/20 | 新聞産業・文化の継承と振興、メディア教育、人材の育成 |
| 野村證券株式会社 | 2016/2/1 | 金融教育、人材育成 |
| 株式会社三井住友銀行 | 2016/7/8 | 金融教育、人材の育成、地域活性化 |
| 京都刑務所 | 2016/7/27 | 教育、人材の育成 |
| 奈良女子大学 | 2016/9/23 | 女性人材、学生及び大学院生の交流、単位互換 |
| 京都市立東山総合支援学校 | 2016/10/13 | 教育、人材の育成 |
| 株式会社京都銀行 | 2016/12/8 | 金融教育、人材の育成、産学連携や地域活性化 |
| 京都励学国際学院 | 2016/12/14 | 日本語教育課程、留学生教育、協定校の拡充 |
| NPO 法人京都景観フォーラム | 2017/1/17 | 地域景観教育、人材の育成 |
| ムーンバット株式会社 | 2017/2/6 | デザイン教育、人材の育成 |
| ハイアットリージェンシー京都 | 2017/2/15 | 寄附講義、ホスピタリティ、人材の育成 |
| 大阪ガス株式会社 | 2017/2/17 | 寄附講義、人材育成 |
| 京都アメリカ大学コンソーシアム | 2017/4/21 | 語学教育、人材の育成 |
| 5×Ruby Inc. | 2017/5/15 | 情報教育、人材の育成、インターンシップ |
| 武庫川女子大学 | 2017/7/11 | SD の実施 |
| 奈良先端科学技術大学院大学 | 2017/7/24 | 理系人材、学生及び大学院の交流、単位互換 |
| オムロンパーソネル株式会社 | 2018/3/2 | リカレント教育、人材の育成 |
| 京都府立医科大学 | 2018/3/26 | 教育・研究、学生の交流、教職員・研究者交流 |
| 大妻女子大学 | 2018/4/10 | 学生及び大学院生の交流、単位互換、教職員及び研究者の交流 |
| 鹿児島国際大学 | 2018/7/23 | 学生・院生の教育・相互交流、学術研究、教職員の相互交流、地域貢献 |
| 東山警察署 | 2018/7/24 | 事故・事件の防止活動と対策、教育・研究支援 |
| 岐阜県白川村 | 2019/4/1 | 地域の活性化及び産業の振興、教育、伝統文化の継承と振興、人材の育成 |
| 共立女子大学・共立女子短期大学 | 2019/5/1 | 学生の教育・学術研究、教職員の相互交流、地域貢献 |
| 滋賀県多賀町 | 2019/6/12 | 地域産業の振興、地域活性化、人材の育成 |
| オムロンエキスパートリンク株式会社 | 2019/8/1 | 女性のためのリカレント教育プログラム構築・運営、再就職支援 |
| 株式会社 ワークアカデミー | 2019/8/1 | 女性のためのリカレント教育プログラム構築・運営、再就職支援 |
| 西日本電信電話株式会社 | 2019/8/1 | 女性のためのリカレント教育プログラム構築・運営、再就職支援 |
| 京都市東山区保育園協議会 | 2020/6/16 | 教職員、学生、リカレント受講生の子どもの保育・保育活動 |
| 滋賀大学 | 2020/11/6 | 学生の教育・研究、学術研究、リカレント教育、文化・芸術の向上 |
| 京都中小企業家同友会 | 2020/12/12 | 中小企業の理解、地域企業の発展、人材の育成、産学連携や地域活性化 |
| 京都中央信用金庫 | 2021/1/27 | 金融教育、人材の育成、産学連携や地域活性化 |
| 公益財団法人奈良屋記念杉本家保存会 | 2021/3/9 | 地域伝統文化の継承と振興、地域活性化、教育活動、人材の育成 |
| 京都弁護士会 | 2021/5/27 | 実務法曹の能力の向上、学術研究及び教育の推進 |
| 日新電機株式会社 | 2021/7/1 | データサイエンス教育・研究、人材育成等 |
| 株式会社 半兵衛麴 | 2021/7/8 | 食文化の継承と振興、地域産業の振興 |
| 株式会社 SCREEN ホールディングス | 2021/8/18 | データサイエンス教育・研究、人材育成等 |
| 社会福祉法人 京都府社会福祉事業団 | 2021/10/1 | 教育・研究、リカレント分野の事業活動等 |
| 日本赤十字社京都府支部 | 2021/11/24 | 防災教育・研究 |
| 京都市 | 2022/3/28 | データサイエンス教育・研究、人材育成等 |
| オムロンヘルスケア株式会社 | 2022/3/28 | データサイエンス教育・研究、人材育成、健康教育等 |

京都女子大学地域・産学官連携ポリシー

(平成29年2月9日制定)

京都女子大学は、創立以来、女性教育のパイオニアとして多様な分野で活躍する女性を輩出してきました。

本学では親鸞聖人の体した仏教に基づく教育を行うことを建学の精神としています。その目的は、人間教育にあります。仏教を通して自己を見つめ自己中心的な姿を明らかにします。互いが自己中心的存在であることを認め信頼関係を構築していきます。現実の諸問題に対しても、問題の本質を捉え、積極的に取り組む人間形成を目指した教育を実践しています。

この建学の精神に則り、京都女子大学は、地域社会、国と地方公共団体、産業界、そして国際社会の発展に寄与する地域・産学官連携を教育と研究に並ぶ大学の使命の一つとして位置付け、この使命を実現するための基本方針として、以下の通り「地域連携ポリシー」および「産学官連携ポリシー」を定めます。

《地域連携ポリシー》

1. 本学の建学の精神に鑑み、地域社会との持続的な連携を行い、地域社会の活性化のために貢献します。
(社会貢献)
2. 地域連携活動を通じて、地域に関する教育・研究の進展を図るとともに、地域社会の発展に貢献できる女性人材を育成します。(教育研究促進・人材育成)
3. 地域連携により得られた知の成果を広く社会に還元し、地域社会と地域課題の共有に努めます。
(地域課題の共有)
4. 地域連携活動を積極的に推進するための活力ある組織運営を行います。(体制整備)
5. 地域連携活動を大学の自己評価に反映させます。
(自己評価)
6. 本学の地域連携活動を大学の内外に向けてわかりやすく発信します。(情報公開・広報活動)

《産学官連携ポリシー》

1. 公的機関・企業等との共同研究・受託研究等を積極的に推進し、社会・経済の発展に寄与するとともに、本学の教育研究活動の基盤向上を図ります。
(共同研究)
2. 産学官連携活動から得られる成果を本学の教育・研究の促進に役立てます。(教育研究促進)
3. 産学官連携活動を通じて、社会の発展に貢献できる女性人材を育成します。(人材育成)
4. 本学と公的機関・企業等との組織間の明確な契約による連携を基本とし、産学官連携により得られた知的財産を適切に保護・管理し、有効活用していきます。
(知財管理・活用)
5. 透明性の高い産学官連携活動を行い、説明責任を果たします。(説明責任)
6. 産学官連携活動を積極的に推進するための活力ある組織運営を行います。(体制整備)
7. 産学官連携活動を大学の自己評価に反映させます。
(自己評価)
8. 本学の産学官連携活動を大学の内外に向けてわかりやすく発信します。(情報公開・広報活動)

以 上



編集・発行

京都女子大学 地域連携研究センター

〒605-8501 京都市東山区今熊野北日吉町35

TEL. 075(531)9057 FAX. 075(531)7323

E-mail: renkei@kyoto-wu.ac.jp

URL: <https://rccp.kyoto-wu.ac.jp>